

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.10

『HP Deployment Management ユーザーズガイド』

ドキュメントリリース日: 2010年9月(英語版)

ソフトウェアリリース日: 2010年9月(英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付属する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®, Intel® Itanium®, Intel® Xeon®, および Pentium® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation とその子会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最近更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細については、HPの営業担当にお問い合わせください。

バージョン番号が9.10である理由

PPM Centerは、HP BTO Operationsバージョン9ポートフォリオに組み込まれています。このバージョン番号を使用するのは、PPM Centerのバージョンと、同時期にリリースされる他の製品のバージョンを揃えるためです。PPM Center 9.10はPPM Center 8.0xをベースとしており、このバージョンの製品ファミリーを拡張した製品となっています。HP BTO Operationsバージョン9ポートフォリオ内でリリースされる製品では、共有のテクノロジー、共通のプラットフォーム、統合、ソリューション、アップグレードツール、プロフェッショナルサービスが提供されます。

サポート

次のHPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/>

HPソフトウェアサポートオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次のWebサイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP PassportのIDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

目次

1	HP Deployment Managementの開始	9
	HP Deployment Managementの紹介	9
	HP Deployment Managementのプロセスの概要	10
	HP Deployment Managementの用語と概念	13
	標準インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment Management	13
	パッケージとオブジェクトタイプ	14
	ワークフローとワークフローステップ	16
	リリース	17
	HP Deployment Managementの環境	18
	HP Deployment Managementの統合	19
	関連ドキュメント	21
2	パッケージについて	23
	パッケージについて	23
	標準インタフェースのパッケージ	27
	[パッケージ詳細] ページの [ヘッダー] セクション	29
	[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション	29
	[パッケージ詳細] ページの [メモ] セクション	30
	[パッケージ詳細] ページの [参照] セクション	30
	PPM Workbenchのパッケージ	31
	[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション	32
	[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ	33
	[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ	34
	明細実行ログへのアクセス	35
	パッケージ実行履歴へのアクセス	36
	グラフィックビュー	36
	明細の権限の表示	37
	明細のトランザクション履歴の表示	38

決定の詳細の表示	38
ワークフローステップ情報のURLの表示	38
[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ	39
[パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ	40
参照リレーションシップ	41
先行タスクリレーションシップ	46
後続タスクリレーションシップ	46
3 パッケージの作成	47
パッケージ作成の概要	47
パッケージを作成する前に	47
ワークフローの選択	48
環境の確認	51
オブジェクトタイプの確認	52
オブジェクトタイプの表示	54
パッケージの作成	55
PPM Workbenchを使ったパッケージの作成	55
既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成	57
パッケージからの参照としてのパッケージの作成	60
リクエストからの参照としてのパッケージの作成	62
パッケージの一般情報の入力	63
パッケージへの明細の追加	64
パッケージへのメモの追加	68
パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加	69
パッケージ参照としての添付ファイルの追加	70
パッケージ参照としての既存パッケージの追加	72
パッケージ参照としての新規パッケージの追加	73
パッケージ参照としてのプログラムの追加	75
パッケージ参照としてのプロジェクトの追加	76
参照としてのリリースの追加	78
パッケージ参照としての既存リクエストの追加	80
パッケージ参照としての新規リクエストの追加	82
パッケージ参照としてのタスクの追加	83
パッケージ参照としてのURLの追加	85
パッケージの送信	86
4 パッケージの処理	87
パッケージ処理の概要	87
標準インタフェースを使ったパッケージの処理	88

標準インタフェースでのパッケージの開始	89
[パッケージの検索] ページからのパッケージの開始	89
[マイパッケージ] ポートレットからのパッケージの開始	90
通知リンクを使ったパッケージの開始	90
標準インタフェースでのパッケージの承認	90
標準インタフェースでのパッケージへのメモの追加	93
標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加	94
参照としての添付ファイルの追加	95
パッケージ参照としての既存パッケージの追加	96
パッケージ参照として新規パッケージの追加	98
パッケージ参照としてのプログラムの追加	100
パッケージ参照としてのプロジェクトの追加	101
パッケージ参照としてのリリースの追加	102
パッケージ参照としての既存リクエストの追加	103
パッケージ参照として新規リクエストの追加	104
パッケージ参照としてのタスクの追加	106
パッケージ参照としてのURLの追加	107
PPM Workbenchを使ったパッケージの処理	108
PPM Workbenchからのパッケージの開始	108
パッケージのステータスの確認	109
「適格」なステップの実行	110
ワークフローステップの処理	111
意思決定ワークフローステップの実行	113
実行ワークフローステップの実行	115
メモの追加	117
参照の追加、更新、削除	118
参照の追加	118
参照リレーションシップの更新	119
参照の削除	120
進行中のパッケージへのパッケージ明細の追加	120
5 パッケージの管理	121
HP Deployment Management でのパッケージの管理	121
パッケージのマージ	121
新規パッケージグループの作成	123
パッケージグループの編集	125
パッケージの削除	127
パッケージ明細のキャンセル	128

1 HP Deployment Managementの開始

HP Deployment Managementの紹介

HP Deployment Management はHP Project and Portfolio Management Center(PPM Center)の一部であり、ソフトウェアコード、設定、コンテンツの移行とデプロイを自動化する製品です。HP Deployment Management では、これらのオブジェクトが複数のパッケージに分けられ、HPの設定ワークフローでモデル化されたビジネスプロセスに沿ってルーティングされます。ワークフローにより、各パッケージが必要なステップ(システムの構築、テスト、品質保証、ステージング、最終的なデプロイ)を自動的に経て進みます。

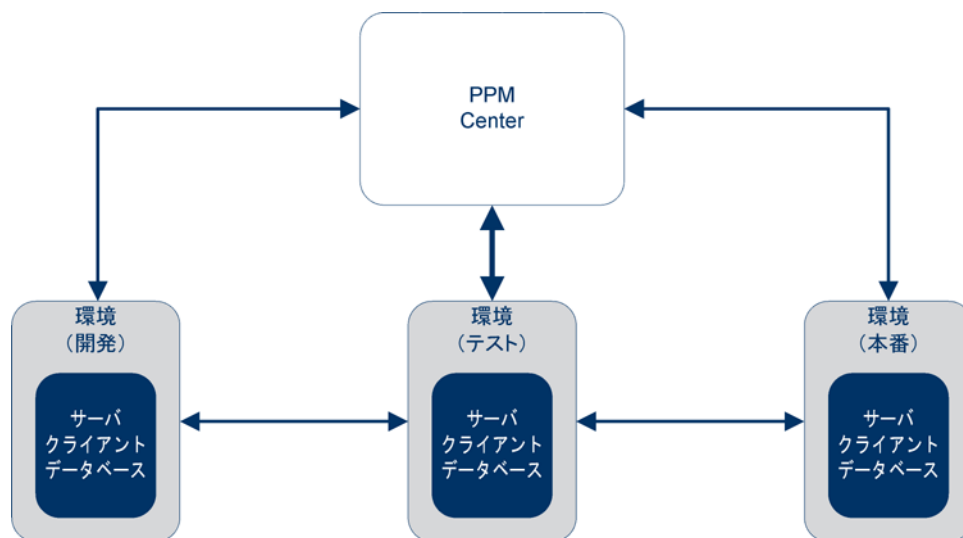
HP Deployment Management では、各パッケージに必要なアプリケーションコンポーネント(XMLコンテンツ、HTMLファイル、Java™プログラム、Oracle®アプリケーションの設定など)が自動的にデプロイされます。たとえば、HP Deployment Managementを開発環境に接続すると、バージョン制御リポジトリからJavaファイルがコピーされ、それらのファイルが品質保証環境に転送されます。次に、Javaコンパイラを使ってすべてのファイルがコンパイルされ、単一のJavaプログラムにパッケージ化されます。カスタマはビルトインのスケジューラを使用してデプロイをスケジュールできます。HP Deployment Managementによって、パッケージ情報、改変されたアプリケーションコンポーネント、取得済みの承認、実行したデプロイなど、すべてのアクティビティの監査履歴が保持されます。

HP Deployment Managementのプロセスの概要

HP Deployment Managementは、ミッションクリティカルなアプリケーションに対するソフトウェアの変更をデプロイおよび監査するためのエンタープライズアプリケーションです。デプロイを正常に実行するために必要なすべての情報(移行する環境やオブジェクトに関する情報など)が、「パッケージ」という単一の論理ユニットに収集されます。

パッケージはHP Deployment Managementにおける基本の作業単位です。パッケージは、ビジネスワークフローを通して処理されるオブジェクトで構成されています。そのため、ソフトウェアの変更を正常に行うことができ、トラッキングが容易になっています。

図 1-1. HP Deployment Managementの概要

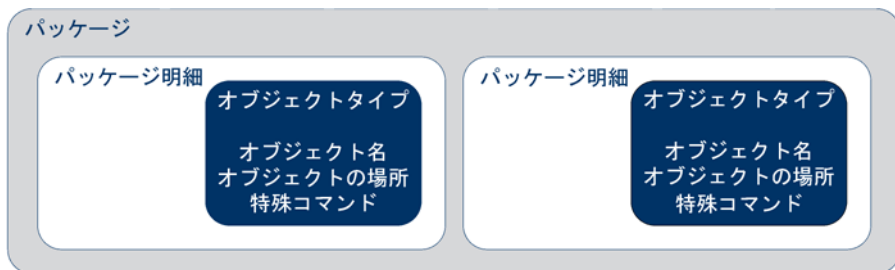


パッケージはオブジェクトのグループで構成され、それぞれがオブジェクトタイプに属しています。各オブジェクトタイプは、パッケージに必要な情報や受け入れ可能な追加情報を定義する一連のパラメータに関連付けられています。

パッケージの詳細については、第2章「パッケージについて」(23 ページ)を参照してください。

たとえば、[ファイル移行] オブジェクトは、環境間でファイル (オブジェクト) をコピーする標準のオブジェクトタイプです。

図 1-2. パッケージ



各パッケージ明細は個別に操作できますが、パッケージ明細およびオブジェクトのグループは論理ユニットとして処理やトラッキングをまとめて行います。パッケージの処理方法は、適用する個々のワークフローによって異なります。図 1-3 に、パッケージ Workbench の [パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージを示します。

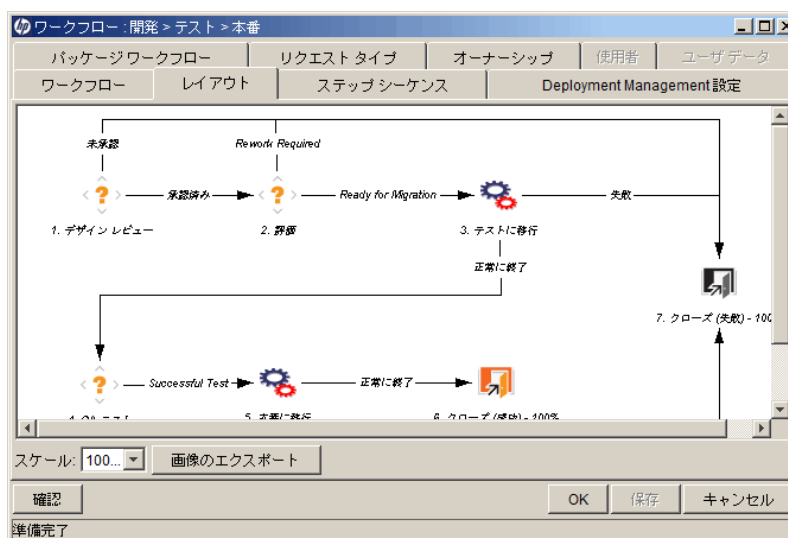
図 1-3. [パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージ

シーケンス	オブジェクトタイプ	アプリケーションコード	1	2
1	RCS サーバファイル	(なし)	File Name: TestFile	RCS Dir:
2	ファイル クライアント → クライアント	(なし)	Client File Name: Mercury Help.txt	Sub Path:
3	PVCS ファイル移行	(なし)	File Location: クライアント	Sub Path:

ワークフローは、パッケージに関連付けられているビジネスプロセスです。ワークフローは、パッケージ内のオブジェクトが従うパスを定義する一連の論理ステップで構成されています。これらのワークフローの中には、コードレビューや管理者の承認などの意思決定プロセスもあります。通常、環境間でのオブジェクトの移行を表す(または実際に実行する)ワークフローステップが1つ以上あります。

図 1-4 では、[テストに移行] ワークフローステップが、環境間でのパッケージオブジェクトの移行を表しています。[デザインレビュー] および [評価] ワークフローステップは、ビジネスパッケージ関連の意思決定です。

図 1-4. [パッケージ] ワークフロー



HP Deployment Managementの用語と概念

標準インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment Management

HP Deployment Managementでは、パッケージの操作を2つのインタフェースで行います。標準インタフェースには、パッケージの詳細ページがあります。PPM Workbenchには、パッケージWorkbenchがあります。これらの2つのインタフェースには共通する機能もありますが、パッケージWorkbenchにはパッケージの詳細ページにはない機能があります。

パッケージWorkbenchとパッケージの詳細ページの主な違いとして、パッケージWorkbenchではパッケージ明細の追加とパッケージの送信を行うことができます。詳細ページからは、パッケージ明細の追加やパッケージの送信は行えません。

エンジニアや開発者はパッケージWorkbenchを使って、パッケージを作成および送信できます。パッケージの作成と送信には、専門知識が必要です。場合によっては、本番サーバのパスワードが必要となります。このような情報の中には、リソースがパッケージに関する意思決定を行うときに使用できないものもあります。また、パッケージに関する意思決定を行うすべてのユーザがPPM Workbenchにアクセスする必要があるわけではありません。



ソフトウェアおよびアプリケーションの変更をデプロイするためのパッケージの作成方法および送信方法については、[第3章「パッケージの作成」\(47 ページ\)](#)を参照してください。

パッケージの詳細ページからは、必要な権限があれば、ワークフローを通してパッケージを処理できます。パッケージにメモや参照を追加したり、パッケージのステータスを決定したりすることが可能です。ただし、詳細ページからは、パッケージの変更や削除はできません。



HP Deployment Managementでパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の詳細については、『[セキュリティ モデルのガイドとリファレンス](#)』を参照してください。ワークフローを通してパッケージを処理する方法については、[第4章「パッケージの処理」\(87 ページ\)](#)を参照してください。パッケージの操作(コピー、キャンセル、マージなど)方法については、[第5章「パッケージの管理」\(121 ページ\)](#)を参照してください。

パッケージとオブジェクトタイプ

パッケージは HP Deployment Management における基本の作業単位です。パッケージは、ビジネスワークフローを通して処理されるオブジェクトで構成されます。

各パッケージ明細は個別に操作できますが、パッケージ明細およびオブジェクトのグループは論理ユニットとして処理やトラッキングをまとめて行います。パッケージおよびパッケージ明細の処理は、そのパッケージに指定されているワークフローによって大きく異なります。図 1-5 に、[パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージを示します。

図 1-5. [パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージ

シーケンス	オブジェクトタイプ	アプリケーションコード	1	2
1	RCS サーバファイル	(なし)	File Name: TestFile	RCS Dir:
2	ファイル クライアント → クライアント	(なし)	Client File Name: Mercury Help.txt	Sub Path:
3	PVCS ファイル移行	(なし)	File Location: クライアント	Sub Path:

各オブジェクトはオブジェクトタイプに属しています。オブジェクトタイプには、環境間で移動するときの動作を決定する関連コマンドがある場合があります。コマンドを使って、各オブジェクトタイプで移行が何を意味するかを定義します。たとえば、[ファイル] オブジェクトタイプではファイルがコピーされるだけにかまいませんが、[データベーススクリプト] オブジェクトタイプではファイルのコピーと送り先データベースに対する実行が必要です。

オブジェクトタイプはユーザによる設定が可能です。HP Deployment Management および機能拡張にはあらかじめ定義されたオブジェクトタイプのライブラリもあり、これらは次のカテゴリに分類されています。

- **標準オブジェクト。**標準オブジェクトはあらかじめ定義されたオブジェクトタイプであり、HP Deployment Management で用意されているか、HP Deployment Management の機能拡張として提供されています。これらのオブジェクトタイプには、重要なアクションを管理する基本機能が備わっています。たとえば、ファイルシステムレベルのオブジェクトやオペレーティングシステムのコマンドの移行や実行、Oracle アプリケーションインスタンスへのパッチの適用などです。[ファイル移行] オブジェクトは、環境間でファイルをコピーする標準のオブジェクトタイプです。もっと複雑な標準オブジェクトタイプには [SQL スクリプト] があります。これはファイルをコピーするだけでなく、送り先データベースに対してスクリプトを実行します。
 - **カスタムオブジェクト。**ソフトウェア環境やデプロイ管理プロセスの要件を満たすには、多くの場合、標準オブジェクトタイプをカスタマイズしたり、まったく新しいオブジェクトタイプを作成したりする必要があります。カスタムオブジェクトカテゴリは、これらのカスタマイズしたオブジェクトタイプと、HP Deployment Management および機能拡張に用意されているオブジェクトタイプを区別するためにあります。このようにカスタマやコンサルタントが設計したオブジェクトタイプは、サードパーティツールや社内製品の統合によく使用します。
 - **PPM Center マイグレータオブジェクト。**PPM Center のマイグレータオブジェクトは、設定情報のエクスポートおよびインポート機能を備えたオブジェクトタイプです。マイグレータオブジェクトには次のような用途があります。
 - 異なる PPM Center インスタンスの間で設定情報を転送する
 - PPM Center のデータベーススキーマから XML ファイルに情報を抽出する
 - XML ファイルからデータベーススキーマに情報を読み込む
- つまり、デプロイ管理の標準のテストプラクティスを用いて、ワークフローを通してパッケージを処理し、設定情報を移行することが可能です。

ワークフローとワークフローステップ

ワークフローは、パッケージ内のオブジェクトが従うパスを定義する一連の論理ステップで構成されています。ワークフローの設定とルーティングはカスタマイズできます。また、ワークフローエンジンでは、ほぼすべてのビジネスプラクティスを処理できます。そのため、ユーザが業務を遂行するために新しい一連のプロセスの採用を強要するのではなく、既存のプロセスを自動化するワークフローを生成できます。

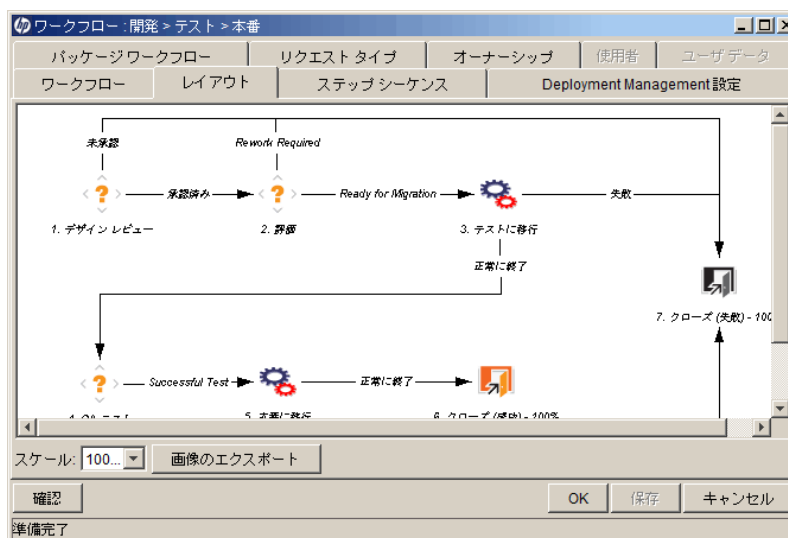
ワークフローステップの使用法は、機能の承認から実際の移行までさまざまです。たとえば、移行ステップでは、指定したオブジェクトが送り元環境から送り先環境へ自動的に移動されます。

ワークフローステップは、完全なワークフローを形成するために互いに連結されるイベントです。HP Deployment Management では、次の4タイプのワークフローステップを使用します。

- **意思決定ワークフローステップ**。意思決定ワークフローステップでは、ユーザまたはユーザグループが結果（作業の承認やレビューの完了など）を指定する必要があります。
- **実行ワークフローステップ**。実行ワークフローステップでは、システムによってアクションが実行され、ステップの結果が更新されます。アクションはトークン値の計算のように単純な場合も、ファイルのコピー、プログラムの実行、Webページの更新のように複雑な場合もあります。
- **条件ワークフローステップ**。条件ワークフローステップは、複雑なワークフロー処理に使用する論理ステップです。たとえば、前提条件の各ステップが完了した場合にのみワークフローの先に進むことを許可するステップは条件ステップです。
- **サブワークフローワークフローステップ**。サブワークフローワークフローステップは、サブワークフローとして使用できるようになっているワークフロー全体を指します。サブワークフローを使うことで、あらかじめ定義された手順を含むビジネスプロセスのモデル化に要する時間を短縮できます。

図 1-6に、サンプルのパッケージワークフローを示します。

図 1-6. [パッケージ] ワークフロー



リリース

HP Deployment Management では、リリースを設定して、一緒にデプロイする必要があるパッケージと関連リクエストをまとめることができます。たとえば、XYZ社というソフトウェア会社が5か月後に製品の更新リリースを予定しているとします。同社は製品を確実に投入できるように、HP Deployment Management を使用してリリースを作成し、元のコードに加えたすべての変更をトラッキングできるようにします。

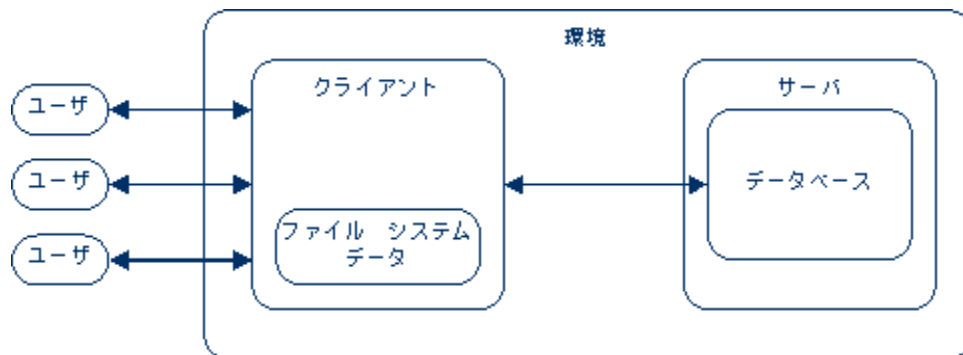
開発者がパッケージを完成させると、そのパッケージがリリースに取り込まれ、一緒に処理されます。必要な変更がリリースにまとめられているため、製品のステータスと投入に向けた進捗状態をすばやく簡単に評価できます。

リリースの詳細と、作成および設定方法については、『HP Deployment Management Configuration Guide』を参照してください。

HP Deployment Management の環境

HP Deployment Management 環境は、単一の論理グループを表すサーバ、クライアント、データベース、ファイルシステムデータの一意の組み合わせで構成されています。

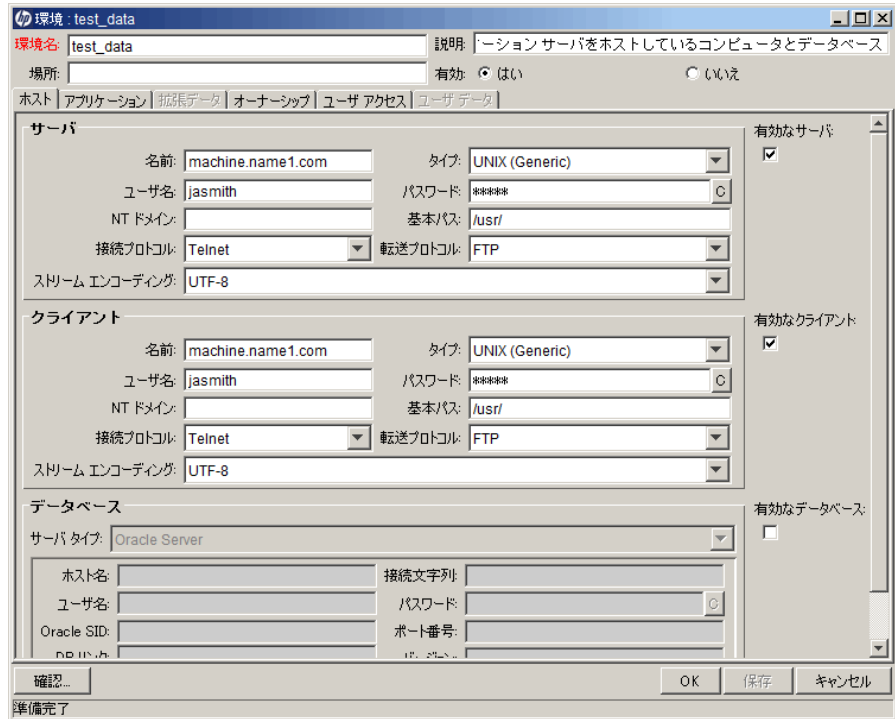
図 1-7. HP Deployment Managementの環境



環境サーバとは、その環境の主要ホストマシンです。このマシンでは、プラットフォームタイプ (例: UNIX®、Windows®) を問いません。通常、サーバは UNIX マシンであり、この環境のデータベースもホスティングしています。

環境のクライアントはリモートクライアントマシンであり、指定した環境の識別も行います。ユーザがクライアント/サーバ環境でUNIXとWindows Serverを併用したマルチプラットフォーム開発を行っている場合、クライアントは決められているのが通常です。クライアントは、ユーザがアクセスするクライアントコードを格納するファイルサーバです。トランザクションフォームなどの多くのプログラムには、クライアントコンポーネント (例: ユーザインタフェースコード) とサーバコンポーネント (例: データベースオブジェクト) の両方があります。19 ページの図 1-8 に、[環境] ウィンドウに表示される情報の例を示します。

図 1-8. サンプル環境



HP Deployment Managementの統合

バージョン制御との統合

HP Deployment Managementでは、標準のバージョン制御システムすべて (RCS、SCCS、PVCS、ClearCase、CCC/Harvest、Visual SourceSafeなど) と完全に統合されています。HP Deployment ManagementアウトバウンドAPIには、デプロイ時のチェックイン、チェックアウト、プロモーションの全機能が備わっています。

ファイルシステムオブジェクトを新しい環境にデプロイすると同時に、バージョン制御で更新できます。これによって、バージョン制御リポジトリ、物理環境、HP Deployment Managementのワークフローが同期されます。

HP Demand Management との統合

HP Deployment Management は、アプリケーション環境に加えた変更の物理デプロイを管理します。そのほかの重要な機能として、システムの安定性に関する問題(リクエスト)の収集と分析も行われます。HP Deployment Management が HP Demand Management と統合されているのは、このリクエスト収集を容易にするためです。

HP Deployment Management と同様に、HP Demand Management もワークフローベースのシステムです。送信からクローズまで、リクエストの監査履歴を完全にトラッキングできます。HP Demand Management と HP Deployment Management は緊密に統合されているため、リクエストからパッケージを自動的に生成できます。

パッケージが完成すると、リクエストは自動的に更新されます。この閉ループ型の統合により、問題のステータスを一貫して把握できるほか、複数のアプリケーションにわたって冗長なデータを保持する必要がありません。

HP Deployment Management の機能拡張によるサードパーティアプリケーションとの統合

HP Deployment Management の機能拡張はアプリケーション固有のモジュールであり、オブジェクト、ファイル、パッチのデプロイおよびデプロイ後のステップを自動化します。Extensions は HP Deployment Management と完全に統合されており、さまざまなエンタープライズアプリケーションの管理に適した総合ソリューションとなっています。次の機能拡張があります。

- HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite
- HP Deployment Management Extension for Oracle Technology
- HP Deployment Management Extension for SAP Solutions

関連ドキュメント

次のドキュメントに関連情報があります。

- 『HP Deployment Management Configuration Guide』
- 『コマンド、トークン、妥当性検証のガイドとリファレンス』
- 『Reports Guide and Reference』
- 『セキュリティ モデルのガイドとリファレンス』
- 『HP エンティティ ガイド』

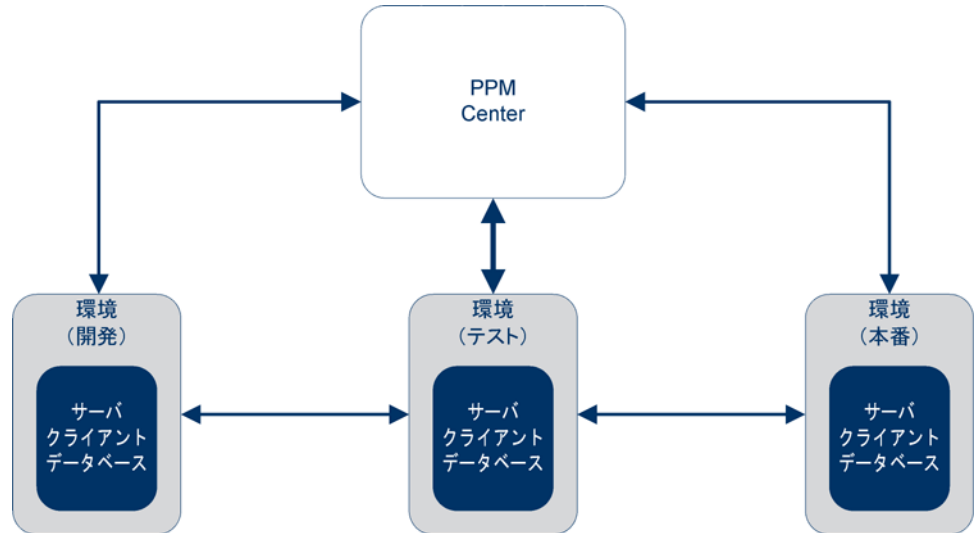
2 パッケージについて

パッケージについて

HP Deployment Management は、ソフトウェアコード、設定、コンテンツの移行とデプロイを自動化する製品です。PPM Workbench と標準インターフェースにより、これらのオブジェクトがパッケージに分けられ、ビジネスプロセス (ワークフロー) に沿ってルーティングされます。ワークフローによって、各パッケージが必要なステップを自動的に経て進みます。

たとえば、開発環境 (Dev) からテスト環境 (Test) に、オペレーティングシステムのパッチをコピーするとします。オペレーティングシステムのパッチを徹底的にテストした後、本番環境 (Prod) にコピーします。

図 2-1. HP Deployment Managementでのパッケージ処理



パッケージはHP Deployment Managementにおける基本の作業単位です。各パッケージはワークフロー（ビジネスプロセス）に従います。ビジネスプロセスと同様に、パッケージに影響する意思決定が行われ、アクションが実行されます。各意思決定またはアクションがワークフローステップになります。

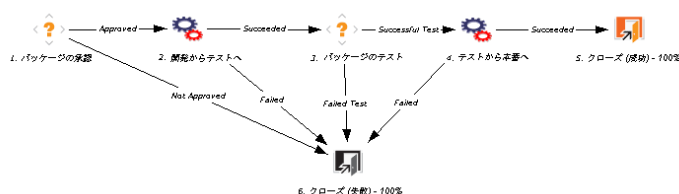
パッケージに関して意思決定が必要な場合、ワークフローステップを手動で更新して、その意思決定を反映する必要があります。ただし、一部のアクション（異なる環境間でのファイルの移行など）は自動的に実行されるように設定できます。環境間でファイルを自動的に移行するワークフローステップを構成するために必要な基本コンポーネントは次のとおりです。

- パッケージ。ファイルの名前、場所、タイプ、適用するワークフローを定義します。
- ワークフロー。ファイルの移行（ワークフローステップ）をトリガする条件と、ファイル移行の送り元環境と送り先環境を決定します。

パッケージを作成するとき、そのパッケージが経なければならないステップを定義する単一のワークフローを割り当てます。図 2-2に、次のステップを含むサンプルワークフローを示します。

- パッケージの承認
- 開発からテストへ(移行)
- パッケージのテスト
- テストから本番へ(移行)
- 終了

図 2-2. パッケージのワークフローとワークフローステップ



[パッケージの承認] および [パッケージのテスト] ワークフローステップは、このワークフローにおいて手動で実行する必要があります。[開発からテストへ] および [テストから本番へ] ワークフローステップは自動的に実行されるように設定します。

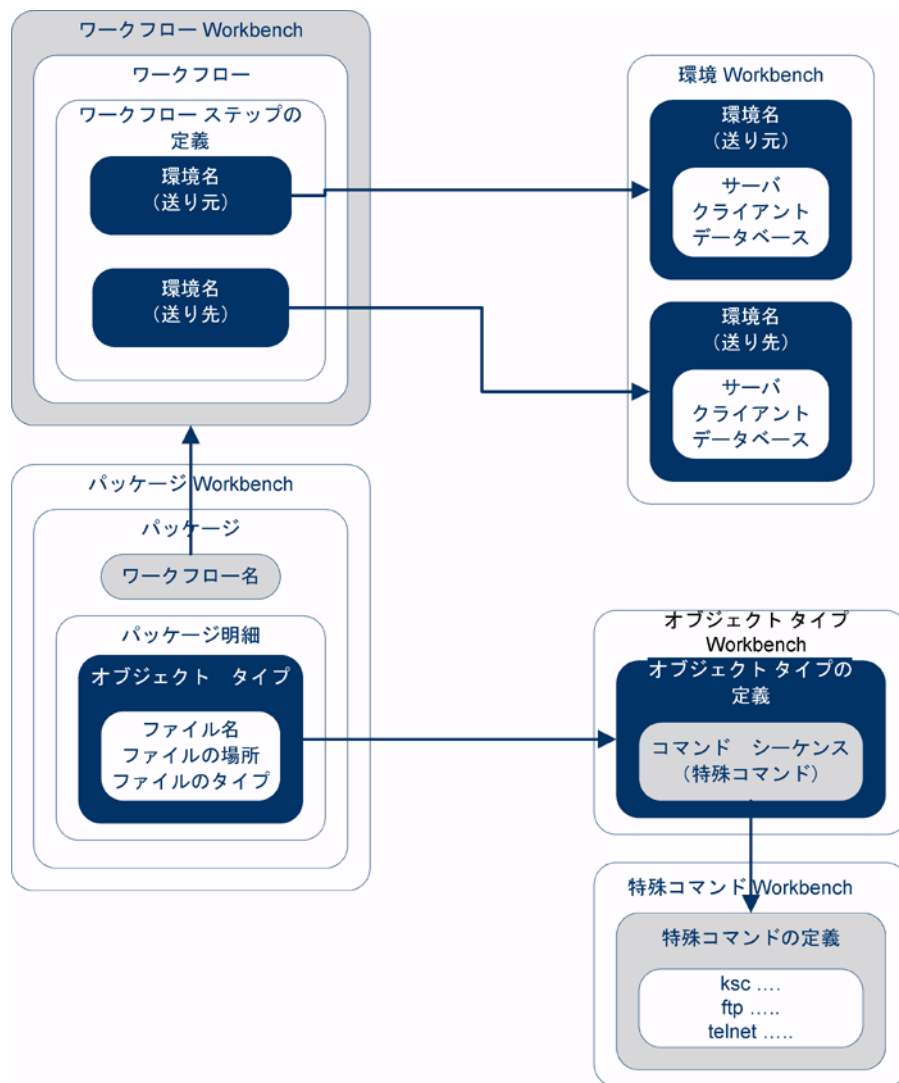


パッケージにワークフローを割り当てるには、ワークフローステップやワークフローの設定方法の知識は不要です。ただし、ワークフロー、ワークフローステップ、環境内の情報にアクセスする方法は理解している必要があります。

26 ページの図 2-3 では、パッケージ Workbench に表示されるパッケージはワークフロー Workbench のワークフローと関連付けられています。移行ワークフローステップは、送り元環境および送り先環境を使って設定されています。環境へのアクセスと設定には、環境 Workbench を使用します。

26 ページの図 2-3 のパッケージは、1つのパッケージ明細と1つのオブジェクトタイプを使って設定されています。パッケージ明細に含めることのできるオブジェクトタイプは1つのみです。オブジェクトタイプには、ファイルの名前、場所、タイプ (ASCII またはバイナリ) など、ファイル (オブジェクト) を移行するために必要な情報が含まれています。オブジェクトタイプの定義によっては、追加情報が必要なことがあります。

図 2-3. パッケージのまとめ方



オブジェクトタイプの定義は、オブジェクトタイプ Workbenchで行います。オブジェクトタイプ Workbenchでは、環境間でオブジェクトを移行するために使用するコマンドシーケンスを開いてアクセスできます。これらのコマンドシーケンスの中には、特殊コマンド Workbenchで定義されている特殊コマンドもあります。

パッケージを作成するには、次の知識が必要です。

- **ワークフロー**。ワークフロー Workbench で定義されています。
- **環境**。ワークフローステップで指定され、環境 Workbench で定義されています。
- **オブジェクトタイプ**。オブジェクトタイプ Workbench で定義されています。

HP Deployment Management でパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の詳細については、『セキュリティ モデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

標準インタフェースのパッケージ

標準インタフェースの [パッケージ詳細] ページでは、パッケージ情報の表示、パッケージへのメモおよび参照の追加、ワークフローを通してのパッケージの処理が可能です。リクエストの参照として新しいパッケージを追加するときは、PPM Workbench の [パッケージ] ウィンドウにはアクセスしません。この場合、標準インタフェースの [新規パッケージ] ページにアクセスします。

[新規パッケージ] ページで新しいパッケージを作成した場合、そのパッケージは送信可能な完全なものではありません。この場合、[新規パッケージ] ページが開き、標準インタフェースでパッケージが保存されます。パッケージを送信するには、PPM Workbench の [パッケージ] ウィンドウを使ってパッケージ明細を追加する必要があります。28 ページの図 2-4 に、標準インタフェースからリクエストへの参照として作成したパッケージの詳細ページを示します。明細はまだありません。

図 2-4. [パッケージ詳細] ページ

パッケージ 30007

保存 リセット

ヘッダー

パッケージ番号:
パッケージ グループ:
作成者: Admin User
説明:
作成日時: 2010/12/03
ワークフロー: 開発 > テスト > 本番
 ステータス: 進行中

アサインされたユーザ:
優先度:
上位:
アサイン先グループ:
パッケージ タイプ:
優先度シーケンス:
達成率 (%): 0

ステータス

明細の表示: 保留中の明細のみ
 ステップの表示: 自分のアクションを待つステップ
 すべての明細
 すべてのステップ
[リフレッシュ](#)

表示: すべての明細	適格なステップの表示: 期間 開発 > テスト > 本番												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">シーケンス</th> <th style="width: 33%;">オブジェクト名</th> <th style="width: 33%;">オブジェクト タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">このパッケージシロは、表示する明細がありません。</td> </tr> </tbody> </table>	シーケンス	オブジェクト名	オブジェクト タイプ	このパッケージシロは、表示する明細がありません。			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;"></th> <th style="width: 33%;"></th> <th style="width: 33%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> </tr> </tbody> </table>				●	●	●
シーケンス	オブジェクト名	オブジェクト タイプ											
このパッケージシロは、表示する明細がありません。													
●	●	●											

すべてチェック すべてクリア 明細の詳細 ログの表示
すべてチェック すべてクリア ワークフロー アクション

メモ

保存時に追加されるメモ:

参照

参照の追加

新規参照: 追加

保存時に追加される参照:

戻る 削除

保存 リセット

[パッケージ詳細] ページの [ヘッダー] セクション

パッケージの詳細ページの [ヘッダー] セクションには、パッケージの作成者、作成日、関連付けられているワークフローなどの一般情報が表示されます。図 2-5 に、典型的な [ヘッダー] セクションを示します。

図 2-5. [パッケージ詳細] ページのヘッダーセクション

ヘッダー			
パッケージ番号:	<input type="text" value="30007"/>	パッケージグループ:	<input type="text" value="Customization"/>
説明:	<input type="text" value="Patch v3 migration test"/>	作成者:	Admin User
ワークフロー:	開発 > テスト > 本番	作成日時:	2010/12/03
		ステータス:	進行中
アサインされたユーザ:	<input type="text" value="Carolyn Sayer"/>	優先度:	<input type="text" value="Normal"/>
アサイン先グループ:	<input type="text" value="PPM Deployment Manager"/>	パッケージタイプ:	<input type="text" value="Customization"/>
達成率 (%):	0	優先度シークENS:	<input type="text" value="50"/>

[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション

[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクションには、パッケージの現在のステータスが表示されます。標準インターフェースでパッケージを最初に作成した時点では、[ステータス] セクションは存在しません。パッケージを送信すると、[ステータス] セクションにパッケージ明細と関連付けられているワークフローのすべてのステップが表示されます。図 2-6 に、[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクションを示します。

図 2-6. [パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション

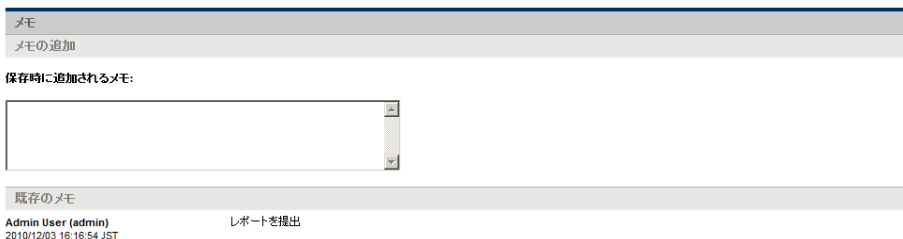
ステータス			
明細の表示:	<input type="radio"/> 保留中の明細のみ	ステップの表示:	<input type="radio"/> 自分のアクションを待つステップ
	<input checked="" type="radio"/> すべての明細		<input checked="" type="radio"/> すべてのステップ リフレッシュ
表示 すべての明細	表示 すべてのステップ 期間 開発 > テスト > 本番		
	シークENS	オブジェクト名	オブジェクト タイプ
<input type="checkbox"/>	1	TestFile	RCS サーバファイル
<input type="checkbox"/>	2	Mercury Help.txt	ファイル クライアント → クライアント
<input type="checkbox"/>	3	test	PVCS ファイル移行
すべてチェック		すべてクリア 明細の詳細 ログの表示	
		すべてチェック すべてクリア ワークフロー アクション	

[パッケージ詳細] ページの [メモ] セクション

[パッケージ詳細] ページの [メモ] セクションには、格納するパッケージ情報を入力するフィールドがあります。[メモ] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。

図 2-7 に、典型的な [メモ] セクションを示します。すべての「メモ」セクションには、[メモの追加] サブセクションがあります。リクエストに対して最初のメモを作成すると、[既存のメモ] セクションが作成されます。

図 2-7. [パッケージ詳細] ページの [メモ] セクション



メモ

メモの追加

保存時に追加されるメモ:

既存のメモ

Admin User (admin) レポートを提出

2010/12/03 16:16:54 JST

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクション

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクションには、パッケージに関する追加情報があります。たとえば、パッケージに URL を追加したり、パッケージから古いドキュメントを削除したりできます。[参照] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。パッケージに対し、参照の追加や削除が可能です。

パッケージに参照を追加するには、[参照の追加] セクションを使用します。保存済みの参照は参照タイプ別に整理されています。たとえば、保存済みの参照パッケージはすべて [パッケージ] セクションに保存されています。一部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できます。参照とその機能の依存関係の詳細については、「[参照リレーションシップ](#)」(41 ページ)を参照してください。

図 2-8に、[パッケージ詳細] ページの[参照] セクションを示します。

図 2-8. [パッケージ詳細] ページの [参照] セクション

参照
参照の追加

新規参照: 添付ファイル [追加]

保存時に追加される参照:

[閉く] [削除]

PPM Workbenchのパッケージ

既存のパッケージを表示するには、パッケージ Workbench を使用します。[パッケージ] ウィンドウからは、パッケージへのメモおよび参照の追加、ワークフローを通してのパッケージの処理が可能です。パッケージの作成および送信、ワークフローを通しての処理、キャンセル、削除も、[パッケージ] ウィンドウから行うことができます。図 2-9に、パッケージの詳細ページを示します。

図 2-9. [パッケージ] ウィンドウ

パッケージ情報

パッケージ番号: 30007 パッケージグループ: Customization 作成者: Admin User

説明: Patch v3 migration test 作成日時: December 3, 2010

ワークフロー: 開発 > テスト > 本番 パッケージステータス: 進行中

アサインされたユーザ: Carolyn Sayer 優先度: Normal 上位:

アサイン先グループ: sment Administrator パッケージタイプ: Customization 優先度シークエンス: 50

達成率 (%): 0

シークエンス	オブジェクトタイプ	アプリケーションコード	1	2
1	RCS サーバファイル	(なし)	File Name: TestFile	RCS Dir:
2	ファイルクライアント → クライアント	(なし)	Client File Name: Mercury Help.txt	Sub Path:
3	PVCS ファイル移行	(なし)	File Location: クライアント	Sub Path:

新規明細 明細の編集 明細のコピー 明細の削除 [↑] [↓]

[送信] [OK] [保存] [キャンセル]

準備完了

[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション

[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクションには、パッケージの作成者、作成日、関連付けられているワークフローなど、パッケージに関する一般情報が表示されます。[パッケージ情報] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージとともに保存されます。通常、パッケージを作成するときには、このセクションでいくつかのフィールドを入力する必要があります。図 2-10に、典型的な一般情報セクションを示します。[パッケージ詳細] ページの [ヘッダー] セクションにある情報は、[パッケージ] ウィンドウの一般情報セクションに表示されます。

図 2-10. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション

シーケンス	オブジェクトタイプ	アプリケーションコード	1	2
1	RCS サーバファイル	(なし)	File Name: TestFile	RCS Dir:
2	ファイル クライアント → クライアント	(なし)	Client File Name: Mercury Help.txt	Sub Path:
3	PVCS ファイル移行	(なし)	File Location: クライアント	Sub Path:

[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ

[パッケージ明細] タブには、パッケージに関連付けられているパッケージ明細が表示されます。パッケージ明細により、環境間で移行するオブジェクトが定義されます。パッケージ明細はそれぞれ1つのオブジェクト(ファイル)を定義します。通常、オブジェクト(ファイル)は、オブジェクトタイプ([**ファイルクライアント**>**クライアント**])、または([**ファイル移行**])、ファイル名、場所、ファイルタイプによって定義されます。1つのパッケージ明細に複数のオブジェクトを定義することはできません。図 2-11に、パッケージ明細が表示されている [パッケージ明細] タブを示します。

図 2-11. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ

シーケンス	オブジェクトタイプ	アプリケーションコード	1	2
1	RCS サーバファイル	(なし)	File Name: TestFile	RCS Dir:
2	ファイルクライアント->クライアント	(なし)	Client File Name: Mercury Help.txt	Sub Path:
3	PVCS ファイル移行	(なし)	File Location: クライアント	Sub Path:

[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ

[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブには、パッケージの現在のステータスが表示されます。パッケージを最初に作成した時点で、[ステータス] タブにパッケージ明細が表示されています。パッケージを保存または送信すると、[ステータス] タブにパッケージ明細と関連付けられているワークフローのすべてのステップが表示されます。

[ステータス] タブでは、次のものを表示できます。

- パッケージに対して実行可能なすべてのアクション
- 現在までに実行したすべてのアクション
- パッケージを解決するために実行する必要がある保留中のアクション

パッケージを送信した後、[ステータス] タブを使って、ワークフローを通して処理できます。各パッケージ明細には、ワークフローのすべてのステップが含まれています。ワークフローステップがアクションに対して適格な場合、そのステップの [デザインレビュー] フィールドに「**適格**」という値が表示されます (図 2-12)。

図 2-12. [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ

パッケージ情報

パッケージ番号: 30007 パッケージグループ: Customization 作成者: Admin User
説明: Patch v3 migration test 作成日時: 2010/12/03
ワークフロー: 開発 > テスト > 本番 パッケージステータス: 進行中
アサインされたユーザ: Carolyn Sayer 優先度: Normal 上位:
アサイン先グループ: System Administrator パッケージタイプ: Customization 優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0

パッケージ明細 ステータス 参照 コーサデータ

シーケンス	オブジェクト名	オブジェクトタイプ	1	2	3	4
			デザインレビュー	評価	テストに移行	QA テスト
1	TestFile	RCS サーバファイル	適格			
2	Mercury Help.txt	ファイルクライアント...	適格			
3	test	PVCS ファイル移行	適格			

リフレッシュ すべてを選択 + すべて - すべて ビュー -> 明細実行ログ (最新) アクション

送信 準備完了 明細実行ログ (最新)
パッケージ実行履歴
グラフィック ビュー
明細の権限
明細トランザクション履歴
決定の詳細
情報 URL OK 保存 キャンセル

パッケージを送信した後、パッケージ明細を展開して、ワークフローに定義されているサブワークフローステップを表示できます。サブワークフローステップを表示するには、**[展開する]**をクリックします。

[ステータス] タブですべてのサブワークフローステップを展開するには、**[すべて展開する]**をクリックします。サブワークフローステップを非表示にするには、**[折りたたむ]**をクリックします。すべてのサブワークフローステップを非表示にするには、**[すべて折りたたむ]**をクリックします。**[展開する]**をクリックすると、パッケージ明細が横方向に展開され、そのサブワークフロー内のすべてのステップが表示されます。

サブワークフローステップのヘッダーテキストは、ワークフローステップのヘッダーとは異なる色で表示されます。ステップ番号には、ワークフローのレベルを示す小数位が付いています。たとえば、最上位レベルのワークフローのステップ3がサブワークフローである場合、そのステップの番号は3.1、3.2、3.3のようになります。同様に、そのサブワークフローの下位のステップもサブワークフローステップである場合は、そのステップの番号は3.2.1、3.2.2、3.2.3のようになります。

[ステータス] タブからは、数種類のログファイル、ワークフローのグラフィックビュー、トランザクション履歴、パッケージに関する詳細ファイルにアクセスできます。パッケージの処理には、これらのファイル、ビュー、履歴が役立ちます。

明細実行ログへのアクセス

パッケージ明細を選択し、明細実行ログを表示することで、特定の明細の実行に関する詳細を取得できます。表示する明細は、実行バッチログ全体の一部分です。


パッケージ明細が環境グループを使って複数の環境に移行するように設定されている場合、実行ログからは実行サマリと送り先の各環境のリンクが返されます。環境の詳細な実行ログを表示するには、関連リンクをクリックします。

パッケージ実行履歴へのアクセス

パッケージ実行履歴には、各パッケージ明細の実行履歴が表示されます。各実行ステップのワークフローステップの名前、実行日、結果([**正常に終了**]または[**失敗**])が表示されます。

パッケージ明細が環境グループを使って複数の環境に移行するように設定されている場合、実行ログからは実行サマリと送り先の各環境のリンクが返されます。リンクをクリックすると、各環境の詳細な実行ログを取得できます。

グラフィックビュー

ワークフローを表示するには、[グラフィックビュー] ウィンドウ (37 ページの  2-13) を選択します。実行済みのワークフローステップやアクティブなステップを確認するには、ウィンドウ上部の凡例を使用します。この画像には、ワークフロー定義で使用されているすべてのワークフローステップおよびサブワークフローが表示されています。

特定のワークフローのグラフィックビューを取得するには、ウィンドウ下部の [**サブワークフローステップの表示**] リストからサブワークフロー名を選択します。新しいウィンドウが開き、そのサブワークフローのグラフィックビューが表示されます。

図 2-13. パッケージの [グラフィックビュー] ウィンドウ



明細の権限の表示

ワークフローの権限は、初期のワークフローの設定時に決定されます。[明細の権限] ビューには、関連するワークフローステップで有効なセキュリティグループのすべてのユーザが表示されます。特定のワークフローステップに設定されている権限について不明な点がある場合は、アプリケーション管理者に問い合わせてください。

明細のトランザクション履歴の表示

各パッケージ明細のトランザクション履歴を表示できます。トランザクション履歴から、HP Deployment Management のワークフローを通してパッケージ明細がどのように処理されたかを詳細に確認できます。トランザクションイベントの日付、ワークフローステップにリンクしたユーザ、ワークフローステップの名前と番号、ステータス、結果などの情報が表示されます。

単一のパッケージ明細によって1回以上実行されたサブワークフローステップの情報を表示するには、[**完全トランザクション履歴**]を選択します。

[**現在のトランザクションステータス**]を選択すると、そのステップまでの最新のトランザクションの情報のみが表示されます。

決定の詳細の表示

決定の詳細には、各ワークフローステップの意思決定履歴が表示されます。表示されるのは、意思決定ワークフローステップの日付、リソース、意思決定です。

ワークフローステップ情報のURLの表示

ワークフローステップを設定するとき、ワークフローステップに関する情報を提供するURLを含めることができます。管理者が情報のURLをワークフローステップにリンクした場合、ワークフローステップ情報のURLウィンドウでURLを表示できます。

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ (図 2-14) には、パッケージに関するメモや情報を入力して保存できるフィールドがあります。[メモ] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。通常、パッケージの作成時には、パッケージにメモを追加する必要はありません。

図 2-14. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

The screenshot shows a software window titled "パッケージ: 30007". The main area is divided into several sections:

- パッケージ情報:** Contains fields for "パッケージ番号" (30007), "パッケージグループ" (Customization), "作成者" (Admin User), "作成日時" (2010/12/03), "ワークフロー" (開発 > テスト > 本番), "パッケージステータス" (進行中), "アサインされたユーザ" (Carolyn Sayer), "優先度" (Normal), "上位" (empty), "アサイン先グループ" (ament Administrator), "パッケージタイプ" (Customization), and "優先度シケンス" (50).
- 達成率 (%):** 0
- パッケージ明細 | ステータス | **メモ** | 参照 | ユーザデータ:** This is the active tab. It is split into two panes:
 - 既存のメモ:** Contains the text "Admin User (admin)", "2010/12/03 16:16:54 JST", and "レポートを提出".
 - 新規メモ:** An empty text area for adding new notes.
- Buttons:** "送信", "OK", "保存", "キャンセル".
- Status:** "準備完了" (Ready).

[パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ

[パッケージ詳細] ページの [参照] タブ (図 2-15) には、パッケージに関する追加情報が表示されます。たとえば、パッケージに URL を追加したり、パッケージから古いドキュメントを削除したりできます。[参照] タブはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。パッケージに対し、参照の追加や削除が可能です。

パッケージに参照を追加するには、[参照の追加] セクションを使用します。保存済みの参照は参照タイプ別に整理されています。たとえば、保存済みの参照パッケージはすべて [パッケージ] セクションに保存されています。一部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できます。参照とその機能の依存関係の詳細については、「[参照リレーションシップ](#)」を参照してください。

図 2-15. [パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ

パッケージ情報

パッケージ番号: 30007 パッケージグループ: Customization 作成者: Admin User
説明: Patch v3 migration test 作成日時: 2010/12/03
ワークフロー: 開発 > テスト > 本番 パッケージステータス: 進行中
アサインされたユーザ: Carolyn Sayer 優先度: Normal 上位:
アサイン先グループ: sment Administrator パッケージタイプ: Customization 優先度シークエンス: 50
達成率 (%): 0

パッケージ明細 | ステータス | メモ | 参照 | ユーザデータ

タイプ	名前	詳細	ステータ...	達成率 (%)	説明	リレーションシップ	リレーションシッ...	ユーザ	追加され
プロジェクト	PPM		プロジェ...	0%		このパッケージ関連	情報: プロジェク...	Admin...	
プロジェクト	Create New Budget		Active	0%		このパッケージ関連	情報: プロジェク...	Admin...	
パッケージ	30032	開発 ...	新規	0%	Patc...	このパッケージ関連	情報: パッケージ3...	Caroly...	

太字で表示されている 項目 は、この パッケージ をアクティブに制御しています

新規参照 添付ファイル 追加 削除 参照を開く

送信 OK 保存 キャンセル

準備完了

参照リレーションシップ

一部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。

- **先行タスクリレーションシップ**。先行タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、特定のエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、参照されたタスクをクローズ([完了済み]、[回避済み]、[キャンセル])するまで、パッケージはワークフローアクションを完了できません。パッケージのステータスは[保留中のタスク]です。タスクがクローズすると、パッケージをさらに操作できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのリクエストフィールドが編集できなくなるわけではありません。
- **後続タスクリレーションシップ**。後続タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、そのエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、元のパッケージがクローズするまで、参照されたタスクのステータスを変更できません。タスクのステータスは[保留中のリクエスト]です。パッケージがクローズすると、再びタスクを変更できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのタスクフィールドが編集できなくなるわけではありません。

42 ページの表 2-1 に、参照とその定義、可能な依存リレーションシップを示します。

表 2-1. 参照とリレーションシップ (1/4 ページ)

参照	参照の説明	可能なリレーションシップ	リレーションシップの説明
添付ファイル	ローカルマシンのファイルを現在のパッケージに添付します。添付ファイルはサーバにコピーされます。	標準の添付処理	(情報) 添付ファイルはこのパッケージに関連付けられています。
パッケージ (既存)	既存のパッケージを参照します。	このパッケージ 関連	(情報) 選択したパッケージはこのパッケージに関連付けられています。
		リリースのこの パッケージの前に 実行してください	(情報) 選択したパッケージをこのパッケージの前に実行する必要があります。(両者がリリースにある場合)
		リリースのこの パッケージの後に 実行してください	(情報) 選択したパッケージをこのパッケージの後に実行する必要があります。(両者がリリースにある場合)
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージがクローズするまで、パッケージに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージがクローズするまで、そのパッケージに対するアクションは実行できません。

表 2-1. 参照とリレーションシップ (2/4 ページ)

参照	参照の説明	可能なリレーションシップ	リレーションシップの説明
パッケージ (新規)	<p>パッケージから新しいパッケージを作成することもできます。</p> <p>ワークフローの一部として設定されている場合は、ワークフローステップからパッケージを作成できます。この場合、そのパッケージへの参照が自動的に生成され、パッケージ間で双方向リンクが確立されません。</p>	リリースのこのパッケージの前に実行してください	(情報) リリースにおいて、選択したパッケージをこのパッケージの前に実行する必要があります。
		リリースのこのパッケージの後に実行してください	(情報) リリースにおいて、選択したパッケージをこのパッケージの後に実行する必要があります。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージがクローズするまで、パッケージに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージがクローズするまで、そのパッケージに対するアクションは実行できません。
プログラム	HP Program Management のプログラムを参照します。	このプログラム関連	(情報) 選択したプログラムはこのパッケージに関連付けられています。
プロジェクト	HP Project Management のプロジェクトを参照します。	このパッケージ関連	(情報) 選択したプロジェクトはこのパッケージに関連付けられています。
リリース	HP Deployment Management のリリースを参照します。	このパッケージを含みます	(情報) パッケージは選択したリリースに含まれています。

表 2-1. 参照とリレーションシップ (3/4 ページ)

参照	参照の説明	可能なリレーションシップ	リレーションシップの説明
リクエスト (既存)	既存のリクエストを参照します。	このパッケージの上位	(情報) 参照されたリクエストはパッケージの上位です。
		このパッケージ関連	(情報) 選択したリクエストはこのパッケージに関連付けられています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエストがクローズするまで、このパッケージに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) このパッケージがクローズするまで、参照されたリクエストに対するアクションは実行できません。

表 2-1. 参照とリレーションシップ (4/4 ページ)

参照	参照の説明	可能なリレーションシップ	リレーションシップの説明
リクエスト (新規)	<p>既存のパッケージから新しいパッケージを作成できます。</p> <p>また、ワークフローの一部として設定されている場合は、パッケージからパッケージを作成できます。この場合、そのパッケージへの参照が自動的に生成され、パッケージ間で双方向リンクが確立されます。</p>	このパッケージの上位	(情報) 参照されたリクエストはパッケージの上位です。
		このパッケージ関連	(情報) 選択したリクエストはこのパッケージに関連付けられています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエストがクローズするまで、このパッケージに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) このパッケージがクローズするまで、参照されたリクエストに対するアクションは実行できません。
タスク	HP Project Managementのタスクを参照します。	このパッケージ関連	(情報) 参照されたタスクはこのパッケージに関連付けられています。
URL	Web アドレスを参照します。URL で示されるドキュメントはMIME 形式である必要があります。	標準のURL 処理	(情報) URLはこのパッケージに関連付けられています。

先行タスクリレーションシップ

先行タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、特定のエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、参照されたタスクがクローズ（**[完了済み]**、**[回避済み]**、**[キャンセル]**）するまで、パッケージはワークフローアクションを完了できません。パッケージのステータスは**[保留中のタスク]**です。参照されたタスクがクローズすると、再びパッケージを操作できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのリクエストフィールドが編集できなくなるわけではありません。

後続タスクリレーションシップ

後続タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、そのエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、元のパッケージがクローズするまで、参照されたタスクのステータスを変更できません。タスクのステータスは**[保留中のリクエスト]**です。パッケージがクローズすると、再びタスクを操作できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのタスクフィールドが編集できなくなるわけではありません。

3 パッケージの作成

パッケージ作成の概要

この章では、ソフトウェアおよびアプリケーションの変更をデプロイするためのパッケージの作成方法および送信方法について説明します。通常、パッケージの作成には **PPM Workbench** を使用しますが、既存のパッケージをコピーしたり、参照されたエンティティとしてパッケージを作成したりすることもできます。

パッケージを作成した後、送信してワークフロー (ビジネスプロセス) を開始する必要があります。パッケージを送信する方法については、「[パッケージの送信](#)」(86 ページ) を参照してください。

パッケージを作成する前に

パッケージを作成する前に、次のものを理解する必要があります。

- **ワークフロー**。ワークフロー **Workbench** で定義されています。
- **環境**。ワークフローステップで指定され、環境 **Workbench** で定義されています。
- **オブジェクトタイプ**。オブジェクトタイプ **Workbench** で定義されています。

ワークフローの選択

各パッケージは、あらかじめ定義されたワークフローを通して処理されます。作成する各パッケージに適用するワークフローを選択する必要があります。適切なビジネスプロセスを正確にモデル化するワークフローを通して、パッケージをルーティングすることが重要です。

HP Deployment Management ワークフローのグラフィカルレイアウトを表示するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。
PPM Workbenchが起動します。
3. ショートカットバーから、**[構成]** > **[ワークフロー]** を選択します。
[ワークフロー Workbench] ウィンドウが開きます。
4. すべてのワークフローを表示するには、ワークフロー Workbenchで **[リスト]** をクリックします。

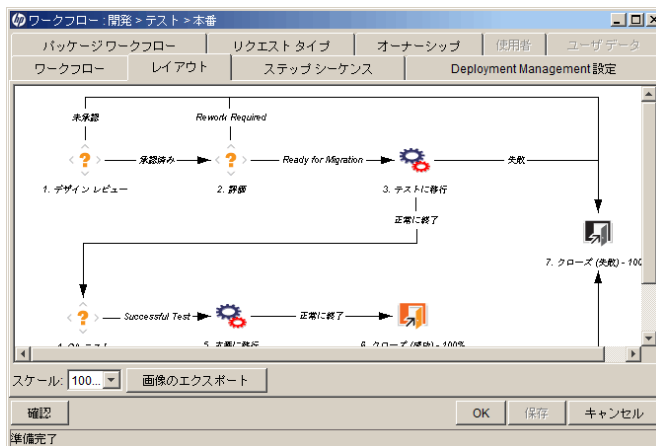


検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。

[結果] タブに、すべてのワークフローレコードが一覧表示されます。

5. [ワークフロー] 列に「パッケージ」を表示するワークフローを選択し、[開く] をクリックします。

[ワークフロー <ワークフロー名>] ウィンドウで、[レイアウト] タブが開き、ワークフローステップがグラフィック表示されます。



ワークフローがパッケージに適切なビジネスプロセスに従っていることを確認します。従っていない場合、別のワークフローを開きます。

6. 移行ワークフローステップを右クリックします。[テストに移行] または [本番に移行] ワークフローステップなどです。

そのステップの [ワークフローステップ] ウィンドウで [プロパティ] タブが表示されます。

7. タブに表示されている送り元環境および送り先環境が正しいことを確認します。

8. [ワークフローステップ] ウィンドウでその他の情報を表示するには、次のタブをクリックします。

- **[セキュリティ]**: 選択したステップに対して使用できるセキュリティグループを定義するために使用します。有効になっているセキュリティグループはすべて**利用可能なセキュリティグループ**フィールドまたは**リンクされたセキュリティグループ**フィールドに表示されます。リンクされたセキュリティグループに属する各ユーザは、その特定のワークフローステップに定義されているアクションを実行できます。
- **[職務分掌]**: ワークフローの選択したステップから分掌するワークフローステップを指定するために使用します。この分掌により、特定のユーザがワークフローで両方のステップを実行できないようになります。たとえば、変更をリクエストするユーザが第三者の承認を得ることなく、本番システムにその変更をデプロイできないようにすることができます。

また、このタブを使って、パッケージ作成者が選択したワークフローステップを実行できないように指定することもできます。

- **[通知]:** ワークフローステップに電子メール通知を添付するために使用します。電子メールメッセージは、ステップで特定のイベントが発生した (例: ステップが特定の結果で完了した) 場合に送信できます。
- **[タイムアウト]:** このタブには、このワークフローステップに設定されているタイムアウト間隔が表示されます。
- **[ユーザデータ]:** このタブには、各ワークフローステップにのカスタムフィールドが表示されます。
- **[結果]:** このタブには、ステップに対して発生し得る有効な結果がすべて一覧表示されます。

9. [ワークフローステップ] ウィンドウを閉じます。

環境の確認

ワークフローステップによっては、送り元環境と送り先環境を指定することがあります。指定した環境が正しいかどうかわからない場合、環境 Workbench でそれらの環境を開いてみるすることができます。

環境にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。
PPM Workbench が起動します。
3. ショートカットバーから、**[環境]** > **[環境]** を選択します。
環境 Workbench が開きます。
4. すべての環境を表示するには、**[リスト]** をクリックします。
検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。
[結果] タブに、すべての環境レコードが一覧表示されます。
5. 表示されている中から1つ以上の環境を選択し、**[開く]** をクリックします。
[環境 <環境名>] ウィンドウが開きます。
6. サーバ、クライアント、データベースの設定を確認します。
7. **[環境]** ウィンドウを閉じます。

オブジェクトタイプの確認

パッケージを作成するとき、オートコンプリートリストに利用可能なオブジェクトタイプが表示されます。パッケージの作成を始める前に利用可能なオブジェクトタイプを表示するには、オブジェクトタイプ **Workbench** でオブジェクトタイプを開きます。表 3-1 に、HP-が用意しているオブジェクトタイプを示します。



HP Deployment Managementの機能拡張では、オブジェクトタイプが追加されています。

表 3-1. オブジェクトタイプ (1/2 ページ)

オブジェクトタイプ	説明
ファイルクライアント > クライアント	クライアント間でファイルをコピーします。
ファイル移行	環境間でファイルをコピーします。
PPMデータソースマイグレータ	PPM Centerのデータソースマイグレータを移行します。
PPMモジュールマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のモジュールを移行します。
PPMオブジェクトタイプマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のオブジェクトタイプを移行します。
PPM概要ページセクションマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center の概要ページを移行します。
PPMポートレット定義マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のポートレット定義を移行します。
PPMプロジェクトタイプマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のプロジェクトタイプを移行します。
PPMレポートタイプマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のレポートタイプを移行します。
PPMリクエストヘッダータイプマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のリクエストヘッダータイプを移行します。

表 3-1. オブジェクトタイプ (2/2 ページ)

オブジェクトタイプ	説明
PPM リクエストタイプ マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のリクエストタイプを移行します。
PPM 特殊コマンド マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center の特殊コマンドを移行します。
PPM ユーザデータ コンテキストマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のユーザデータコンテキストを移行します。
PPM 検証マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center の検証を移行します。
PPM ワークフロー マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のワークフローを移行します。
OS/390 JCL 移行	送り元環境から送り先環境に OS/390 JCL を移行します。
PVCS ファイル移行	PVCS アーカイブから送り先環境にオブジェクトを移行します。
RCS ファイル移行	このオブジェクトは、RCS のコードのチェックアウトと配布を管理します。
RCS サーバファイル	古いファイルは送り先環境でチェックインされます。新しいファイルは送り先環境でチェックインされ、読み取り専用でチェックアウトされます。
SourceSafe ファイル移行	SourceSafe バージョン制御アーカイブからのファイルのチェックアウトと昇格を管理します。

オブジェクトタイプの表示

オブジェクトタイプを開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[オブジェクトタイプ]** を選択します。

[オブジェクトタイプ Workbench] ウィンドウで **[クエリ]** タブが表示されます。

4. すべてのオブジェクトタイプを表示するには、**[リスト]** をクリックします。

検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。

5. 表示されている中から1つ以上のオブジェクトタイプを選択し、**[開く]** をクリックします。

[オブジェクトタイプ <オブジェクトタイプ名>] ウィンドウが開きます。

6. **[コマンド]** タブをクリックします。

7. オブジェクトタイプで呼び出されるコマンドを確認します。

8. [オブジェクトタイプ <オブジェクトタイプ名>] ウィンドウを閉じます。

パッケージの作成

通常、パッケージの作成にはPPM Workbenchを使用しますが、既存のパッケージをコピーしたり、参照されたエンティティとして新しいパッケージを作成したりすることもできます。このセクションでは、3通りの方法すべてについて説明します。

PPM Workbench を使ったパッケージの作成

パッケージは、ソフトウェアやアプリケーションの変更をデプロイするために使用します。このセクションでは、パッケージ明細の追加や適切なデプロイワークフローの指定など、パッケージの内容の定義方法について説明します。ソフトウェアの移行を実行するたびに、新しいパッケージを作成する必要があります。

PPM Workbench からパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。

PPM Workbench が起動します。

3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。

パッケージ Workbench が開きます。

4. [新規パッケージ] をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

5. [パッケージ情報] セクションで、各フィールドに情報を入力します。

このセクションの各フィールドの入力方法については、「[パッケージの一般情報の入力](#)」(63 ページ)を参照してください。

6. [パッケージ明細] タブで、パッケージにパッケージ明細を追加します。

パッケージ明細には、環境間で移行する各オブジェクトに関する情報が含まれています。パッケージ明細を追加する方法については、「[パッケージへの明細の追加](#)」(64 ページ)を参照してください。

7. [メモ] タブで、パッケージにメモを追加します。

メモを追加する方法については、「[パッケージへのメモの追加](#)」(68 ページ)を参照してください。

8. **[参照]** タブで、パッケージに参照を追加します。

参照を追加する方法については、「**パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加**」(69 ページ)を参照してください。

9. パッケージを保存して [パッケージ] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。[パッケージ] ウィンドウを開いたままパッケージを保存するには、**[保存]** をクリックします。

既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成

既存のパッケージ (新規または保存済み) をコピーして、新しいパッケージを作成することができます。既存のパッケージのどのセクションを新しいパッケージに含めるかを指定できます。

既存のパッケージからパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。

PPM Workbench が起動します。

3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。

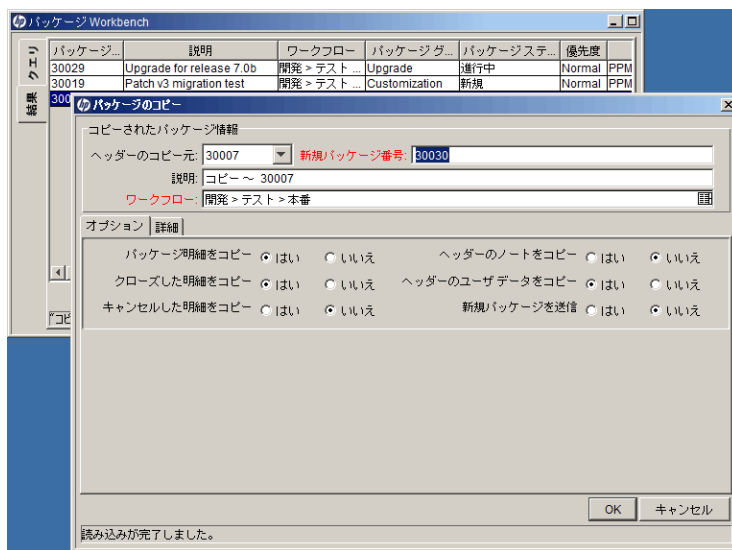
パッケージWorkbenchが開きます。

4. **[クエリ]** タブで、**[リスト]** をクリックします。

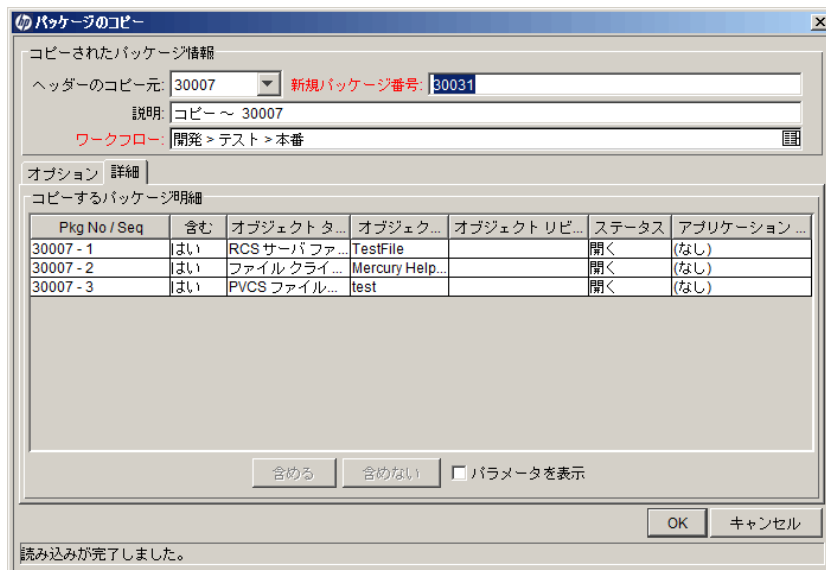
パッケージWorkbenchの**[結果]** タブに、すべての既存のパッケージが一覧表示されます。

5. [結果] タブでパッケージを選択し、[コピー] をクリックします。

[パッケージのコピー] ウィンドウで [オプション] タブが表示されます。
表 3-2 に、このタブで利用できるオプションを示します。



6. 新しいパッケージに含めるセクションを選択し、[詳細] タブをクリックします。



[詳細] タブに、元のパッケージからコピーしたパッケージ明細がすべて表示されます。デフォルトでは、これらの明細すべてが新しいパッケージに含まれます。

7. 表示されているパッケージ明細を新しいパッケージから除外するには、次の手順を実行します。

- a. [コピーするパッケージ明細] テーブルで、明細を選択します。
- b. タブの下部で [含めない] をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウが開き、コピーしたパッケージから選択した情報が表示されます。

8. 表示されているパッケージ明細に関するパラメータを表示するには、次の手順を実行します。

- a. [コピーするパッケージ明細] テーブルで、明細を選択します。
- b. タブの下部で [パラメータを表示] チェックボックスを選択します。

[コピーするパッケージ明細] テーブルのほかの列に、パッケージ明細パラメータが表示されます。

- c. すべてのパラメータを表示するには、水平スクロールバーを使用します。

9. [OK] をクリックします。

表 3-2. [パッケージのコピー] のオプション (1/2 ページ)

オプション	説明
パッケージ明細をコピー	既存のパッケージのすべてのパッケージ明細 ([クローズ済み] または [キャンセル] 以外のステータス) を新しいパッケージにコピーします。デフォルトは [はい] です。
クローズした明細をコピー	既存のパッケージのすべてのクローズ済みパッケージ明細を新しいパッケージにコピーします。デフォルトは [はい] です。
キャンセルした明細をコピー	既存のパッケージのすべてのキャンセルしたパッケージ明細を新しいパッケージにコピーします。デフォルトは [いいえ] です。

表 3-2. [パッケージのコピー] のオプション (2/2 ページ)

オプション	説明
ヘッダーのノートをコピー	既存のパッケージに添付されているすべてのメモを新しいパッケージにコピーします。デフォルトは [いいえ] です。
ヘッダーのユーザデータをコピー	該当する場合、既存のパッケージのユーザデータを新しいパッケージにコピーします。
新規パッケージを送信	パッケージをコピーした後、パッケージを送信します。デフォルトは [いいえ] です。 [いいえ] を選択すると、パッケージは送信されません。パッケージを送信するには、コピーしたパッケージを開いて [送信] をクリックする必要があります。

パッケージからの参照としてのパッケージの作成

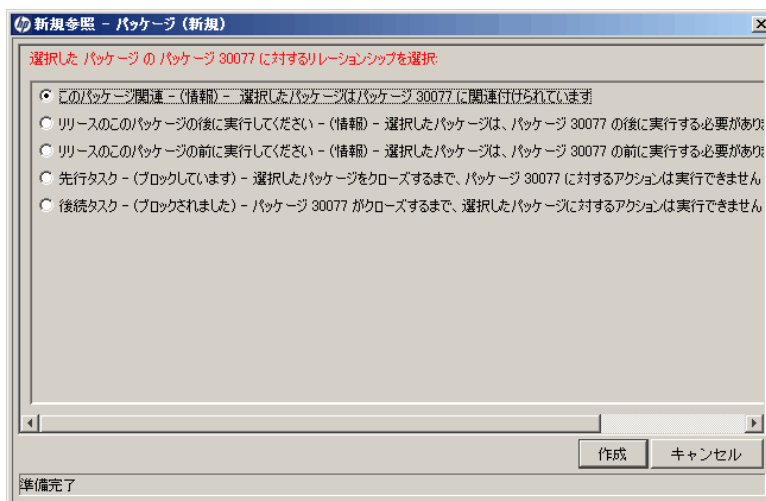
リクエストや別のパッケージなどのエンティティを参照するものとして、新しいパッケージを作成することができます。

既存のパッケージへの参照として新しいパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbench を開く] を選択します。
PPM Workbench が起動します。
3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
パッケージ Workbench で [クエリ] タブが表示されます。
4. 利用できるフィールドを使って検索条件を入力し、[リスト] をクリックします。
[結果] タブに、検索条件に一致するパッケージが一覧表示されます。
5. 開くパッケージの列をダブルクリックします。
[パッケージ] ウィンドウが開きます。
6. [参照] タブをクリックします。

7. タブの下部にある [新規参照] リストから [パッケージ (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - パッケージ (新規)] ウィンドウが開きます。



8. [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、新しいパッケージと既存のパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[作成] をクリックします。

新しい [パッケージ] ウィンドウが開きます。

参照されたエンティティ間で可能なリレーションシップの詳細については、42 ページの表 2-1 を参照してください。

9. 新しいパッケージに関する必須情報とオプション情報を入力して、[OK] または [保存] をクリックします。
10. 元のパッケージが表示されている [パッケージ] ウィンドウで、[OK] をクリックします。

リクエストからの参照としてのパッケージの作成

リクエストからの参照としてパッケージを作成することができます。リクエストからパッケージを作成する場合、適切な権限を持っていても、PPM Workbench は開きません。[新規パッケージの作成] ページと [New パッケージ] ページを使って、標準インタフェースで作業します。リクエストからの参照としてパッケージを作成する場合、パッケージ明細は追加できません。つまり、パッケージを完成させて送信することはできません。パッケージにパッケージ明細を追加し、送信するには、パッケージ Workbench を使用する必要があります。

リクエストからの参照としてパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

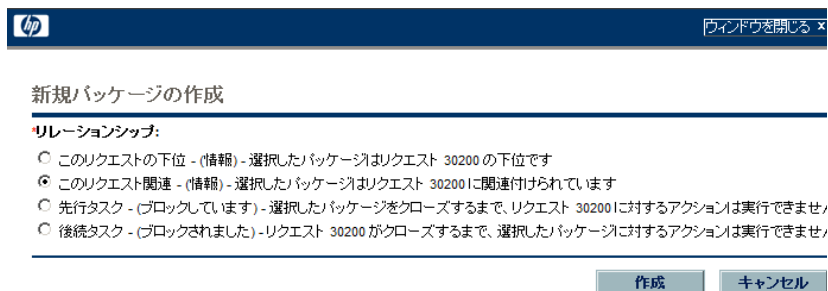
1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Demand Management] > [リクエストの検索] を選択します。
3. リクエストを検索して開きます。

既存のリクエストを開いたり、メニューバーから新しいリクエストを作成したりすることも可能です。既存のリクエストを開く方法やリクエストを作成する方法については、『HP Demand Management ユーザーガイド』を参照してください。

リクエストの詳細ページが開きます。

4. リクエストの詳細ページで、[参照] セクションにスクロールします。
5. [新規参照] リストから [パッケージ (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規パッケージの作成] ページが開きます。



6. リレーションシップを選択し、**[作成]** をクリックします。
[Newパッケージ] ページが開きます。
7. リストからワークフローを選択します。
8. **[メモ]** タブでレコードに含めるオプションの情報を入力し、**[保存]** をクリックします。
9. リクエストの詳細ページで、**[保存]** をクリックします。

パッケージの一般情報の入力

パッケージの一般情報セクションを入力するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。
PPM Workbench が起動します。
3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。
パッケージ Workbench が開きます。
4. **[クエリ]** タブで、**[新規パッケージ]** をクリックします。
[パッケージ] ウィンドウが開きます。[パッケージ] ウィンドウを使って、パッケージの内容を定義します。パッケージ番号は自動的に割り当てられます。
5. 必須フィールドを入力します。
6. オートコンプリートリストからワークフローを選択します。
7. [パッケージ] ウィンドウで、**[OK]** または **[保存]** をクリックします。
パッケージ明細がパッケージに追加されます。

パッケージへの明細の追加

パッケージ明細により、環境間で移行するオブジェクトが定義されます。パッケージ明細はそれぞれ1つのオブジェクト(多くの場合はファイル)を定義します。通常、オブジェクト(ファイル)は、オブジェクトタイプ([**ファイルクライアント**] > [**クライアント**]、または [**ファイル移行**])、名前、場所、(ファイルの場合は)ファイルタイプによって定義されます。

パッケージに明細を追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[**開く**] > [**管理**] > [**Workbenchを開く**] を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、[**Deployment Management**] > [**パッケージ**] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. パッケージを開くか、新しいパッケージを作成します。

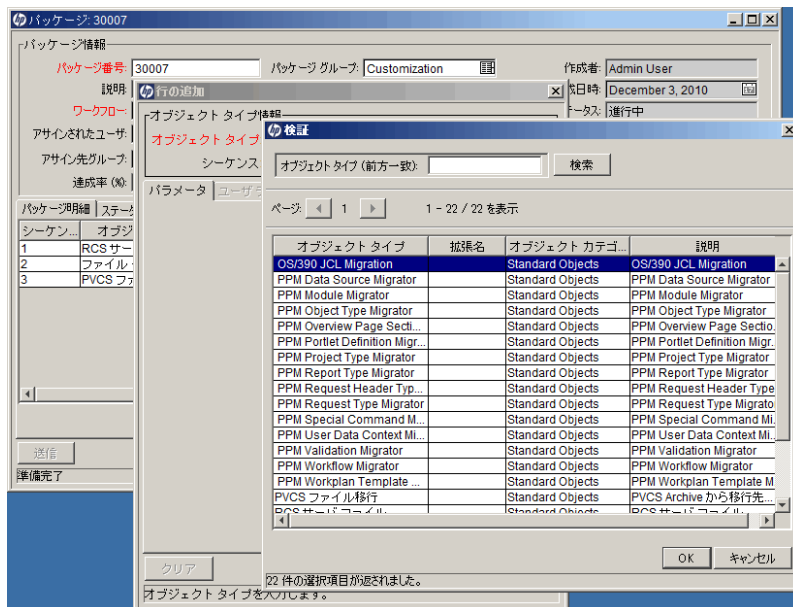
[パッケージ] ウィンドウが開きます。

5. [**新規明細**] をクリックします。

[行の追加] ウィンドウが開きます。

6. [オブジェクトタイプ] フィールドでオートコンプリートアイコンを使って、移行するオブジェクト (ファイル) のオブジェクトタイプを選択します。

オブジェクトタイプを選択すると、[行の追加] ウィンドウのフィールドが動的に更新されます。



7. [行の追加] ウィンドウで関連するフィールドを入力し、[OK] をクリックします。

[行の選択] ウィンドウから複数のパッケージ明細を追加できることもあります。これが可能なのは、移行する複数のオブジェクト (ファイル) が同じ場所にある場合です。

1つの [行の追加] ウィンドウから複数の明細を追加するには、次の条件を満たしている必要があります。

- パッケージ明細がすべての同じワークフローに従い、同じオブジェクトタイプを使用している。
- オブジェクトタイプパラメータに、[複数] ボタンが有効なオートコンプリートリストフィールドが少なくとも1つある。

複数のファイルを選択することで、複数のパッケージ明細をパッケージに追加できます。ただし、1つのパッケージ明細に複数のオブジェクトを定義することはできません。



[行の追加] ウィンドウの内容は、[パッケージ] ウィンドウでパッケージ明細として表示されます。[行の追加] ウィンドウが閉じます。[行の追加] ウィンドウで [追加] をクリックすると、[パッケージ] ウィンドウにパッケージ明細が加わります。[行の追加] ウィンドウは開いたままです。

パッケージ: 30007

パッケージ情報

パッケージ番号: 30007 パッケージグループ: Customization 作成者: Admin User

説明: Patch v3 migration test 作成日時: December 3, 2010

ワークフロー: 開発 > テスト > 本番 パッケージステータス: 進行中

アサインされたユーザ: Carolyn Sayer 優先度: Normal 上位:

アサイン先グループ: sment Administrator パッケージタイプ: Customization 優先度シケンス: 50

達成率 (%): 0

パッケージ明細 | ステータス | 目 | 戻る | 参照 | ユーザデータ

シケンス	オブジェクトタイプ	アプリケーションコード	1	2
1	RCS サーバファイル	(なし)	File Name: TestFile	RCS Dir:
2	ファイル クライアント -> クライアント	(なし)	Client File Name: Mercury Help.txt	Sub Path:
3	PVCS ファイル移行	(なし)	File Location: クライアント	Sub Path:

送信

OK 保存 キャンセル

準備完了

8. [パッケージ] ウィンドウで、[OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ明細がパッケージに追加されます。関連付けられているワークフローでパッケージを開始するには、[送信] をクリックします。パッケージをワークフローに送信すると、ワークフローの定義されている各ワークフローステップの [ステータス] タブでエントリが生成されます。ワークフローの各ステップは処理の準備ができているため、ステップのステータスは [適格] と表示されます。各パッケージ明細の進捗を確認するには、[ステータス] タブをクリックします。パッケージを送信する方法については、「パッケージの送信」(86 ページ)を参照してください。

パッケージへのメモの追加

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ (図 3-1) には、その他のパッケージ情報が表示されます。メモの添付先はパッケージであり、個々のパッケージ明細ではありません。パッケージ明細に固有のメモがある場合、メモのテキストの一部としてパッケージ明細への参照を含める必要があります。

図 3-1. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] セクション

パッケージ: 30007

パッケージ情報

パッケージ番号: 30007 パッケージグループ: Customization 作成者: Admin User

説明: Patch v3 migration test 作成日時: 2010/12/03

ワークフロー: 開発 > テスト > 本番 パッケージステータス: 進行中

アサインされたユーザ: Carolyn Sayer 優先度: Normal 上位:

アサイン先グループ: System Administrator パッケージタイプ: Customization 優先度シーケンス: 50

達成率 (%): 0

パッケージ明細 | ステータス | **メモ** | 参照 | ユーザデータ

既存のメモ

Admin User (admin)
2010/12/03 16:16:54 JST
レポートを提出

新規メモ

最大化

送信 OK 保存 キャンセル

準備完了

メモを追加できるのは、既存のパッケージ、作成中のパッケージ、クローズしていない送信済みパッケージです。クローズしたパッケージにメモを追加することはできません。

メモを追加するには、パッケージを開き、[メモ] タブをクリックします。[新規メモ] フィールドにメモのテキストを入力し、[保存] をクリックします。[既存のメモ] フィールドにメモが追加されます。

パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクションを使って、パッケージに数タイプの参照を追加できます。たとえば、パッケージにドキュメントやURLを追加できます。パッケージに追加できる参照タイプは次のとおりです。

- 添付ファイル
- パッケージ (新規および既存)
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト (新規および既存)
- タスク
- URL

参照によっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、元のパッケージとの機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。参照と可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「[参照リレーションシップ](#)」(41 ページ)を参照してください。

このセクションでは、パッケージWorkbenchを使ってさまざまなエンティティタイプをパッケージ参照として追加する方法を説明します。標準インタフェースからパッケージ参照を追加する方法については、「[標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加](#)」(94 ページ)を参照してください。

パッケージ参照としての添付ファイルの追加

このセクションでは、添付ファイルをパッケージ参照として追加する手順について説明します。

添付ファイルをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. パッケージを開きます。

5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。

パッケージ情報

パッケージ番号: 30007 パッケージグループ: Customization 作成者: Admin User
説明: Patch v3 migration test 作成日時: 2010/12/03
ワークフロー: 開発 > テスト > 本番 パッケージステータス: 進行中
アサインされたユーザ: Carolyn Sayer 優先度: Normal 上位:
アサイン先グループ: sment Administrator パッケージタイプ: Customization 優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0

パッケージ詳細 | ステータス | メモ | 参照 | ユーザデータ

タイプ	名前	詳細	ステータ...	達成率 (%)	説明	リレーションシップ	リレーションシッ...	ユーザ	追加され
プロジェクト	PPM		プロジェ...	0%		このパッケージ関連	情報: プロジェ...	Admin...	
プロジェクト	Create New Budget		Active	0%	このパッケージ関連	情報: プロジェ...		Admin...	
パッケージ	30032	開発 ...	新規	0%	Patc...	このパッケージ関連	情報: パッケージ3...	Caroly...	

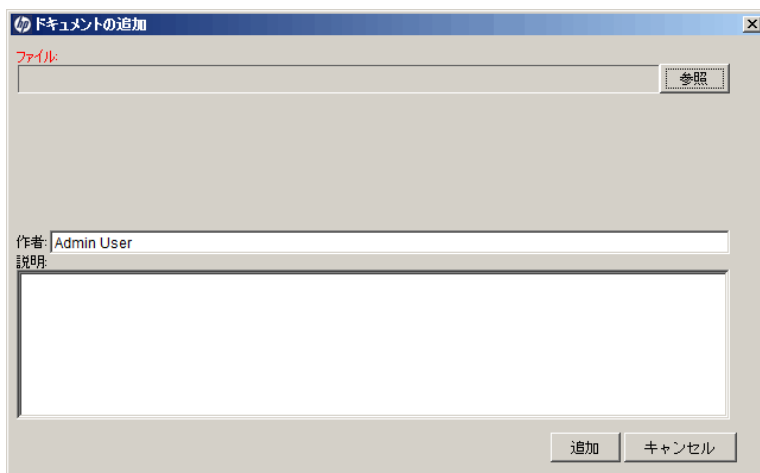
太字で表示されている項目は、このパッケージをアクティブに制御しています

新規参照 添付ファイル 追加 削除 参照を開く

送信 OK 保存 キャンセル

準備完了

6. [新規参照] リストで [添付ファイル] を選択し、[追加] をクリックします。
[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。



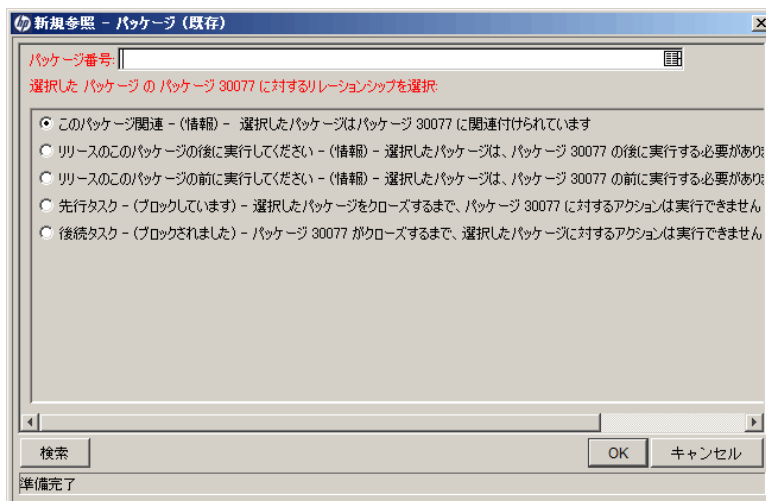
7. ファイルを添付してフィールドを入力し、[追加] をクリックします。
[参照] タブに、添付ファイルが一覧表示されます。
8. [OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ参照としての既存パッケージの追加

パッケージへの参照として既存のパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
PPM Workbenchが起動します。
3. ショートカットバーから、[Deployment Management]>[パッケージ]を選択します。
パッケージWorkbenchが開きます。
4. パッケージを開きます。
5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
6. [新規参照] リストから [パッケージ (既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - パッケージ (既存)] ウィンドウが開きます。



7. [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。

8. [パッケージ番号] オートコンプリートリストから既存のパッケージを選択します。

[パッケージ番号] フィールドに、選択したパッケージの番号が表示されます。

9. [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照] タブに、選択したパッケージが一覧表示されます。

10. [OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ参照としての新規パッケージの追加

新しいパッケージにパッケージを参照させることができます。

パッケージ参照として追加するパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbench を開く] を選択します。

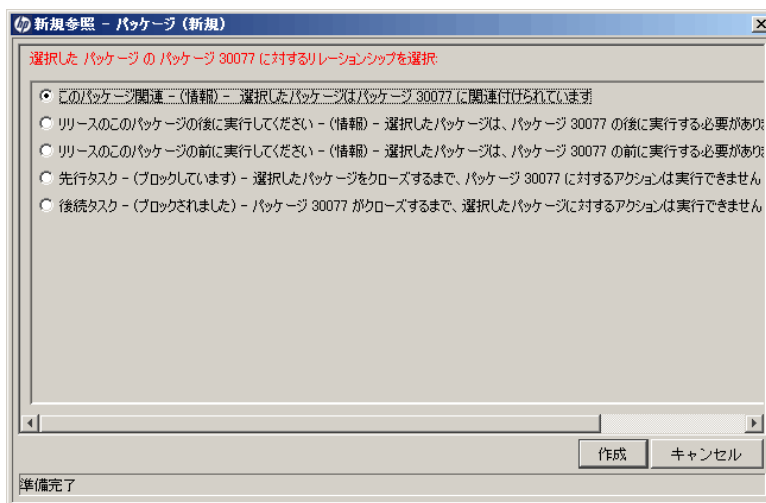
PPM Workbench が起動します。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージ Workbench が開きます。

4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
6. [新規参照] リストから [パッケージ (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - パッケージ (新規)] ウィンドウが開きます。



7. [**選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択**] で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[**作成**] をクリックします。

新しい [**パッケージ**] ウィンドウが開きます。

8. [**ワークフロー**] フィールドに、新しいパッケージに適用するワークフローの名前を入力します。
9. [**メモ**] タブに記録するその他の情報を入力し、値を変更して、[**保存**] または [**OK**] をクリックします。

[**参照**] タブに、新しいパッケージ参照が一覧表示されます。

10. [**保存**] をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのプログラムの追加

既存のプログラムにパッケージを参照させることができます。

既存のプログラムを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。

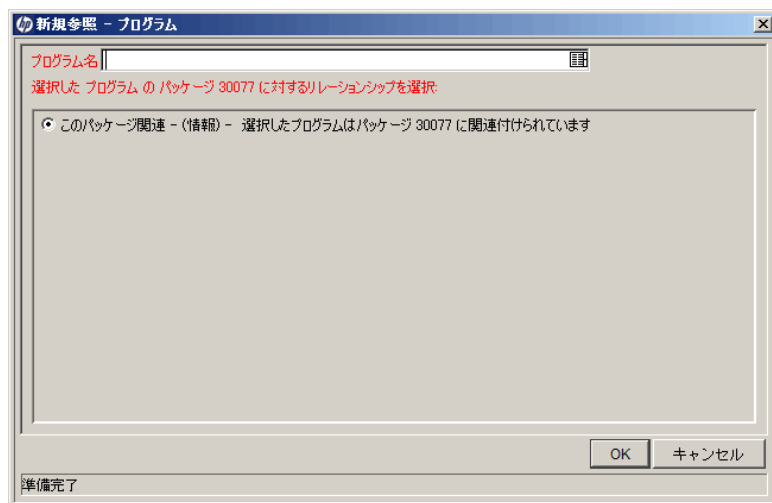
PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. **[パッケージ]** ウィンドウで、**[参照]** タブをクリックします。
6. **[新規参照]** リストで **[プログラム]** を選択し、**[追加]** をクリックします。

[新規参照 - プログラム] ウィンドウが開きます。



7. **[プログラム名]** フィールドで、オートコンプリートリストからプログラムを選択します。

[プログラム名] フィールドに、選択したプログラムが表示されます。

8. [**選択したプログラムのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択**] で、そのプログラムとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[**OK**] をクリックします。

[**参照**] タブに、プログラム名が表示されます。
9. [**保存**] をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのプロジェクトの追加

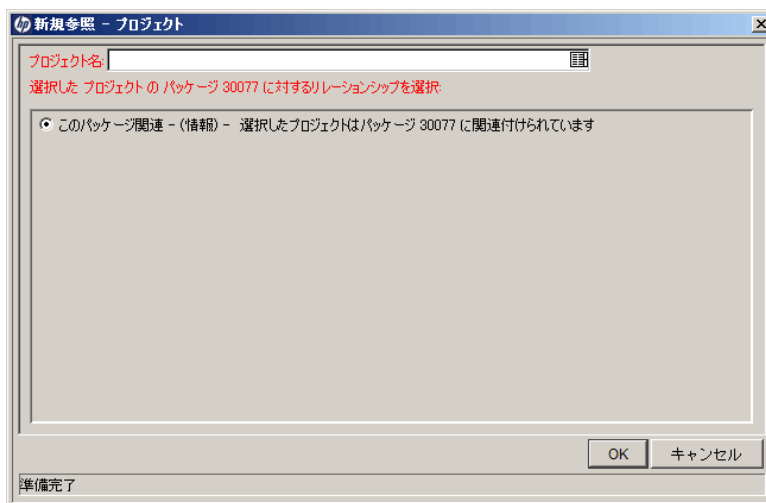
プロジェクトをパッケージ参照として添付するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、[**開く**] > [**管理**] > [**Workbench を開く**] を選択します。

PPM Workbench が起動します。
3. ショートカットバーから、[**Deployment Management**] > [**パッケージ**] を選択します。

パッケージ Workbench が開きます。
4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. [**パッケージ**] ウィンドウで、[**参照**] タブをクリックします。
6. [**新規参照**] リストで [**プロジェクト**] を選択し、[**追加**] をクリックします。

[**新規参照 - プロジェクト**] ウィンドウが開きます。



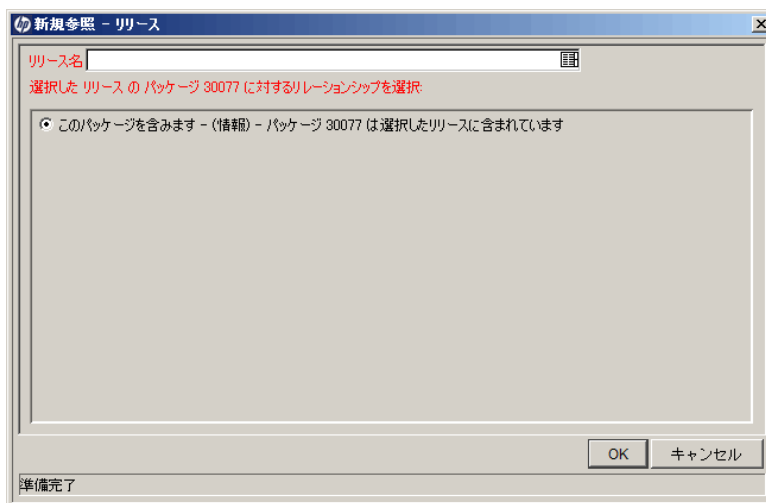
7. [プロジェクト名] フィールドで、オートコンプリートリストからプロジェクト名を選択します。
8. [選択したプロジェクトのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのプロジェクトとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。
[参照] タブに、選択したプロジェクトが一覧表示されます。
9. [保存] をクリックしてパッケージを保存します。

参照としてのリリースの追加

既存のリリースにリクエストを参照させることができます。

リリースを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。
PPM Workbenchが起動します。
3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。
パッケージWorkbenchが開きます。
4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. **[パッケージ]** ウィンドウで、**[参照]** タブをクリックします。
6. **[新規参照]** リストで**[リリース]** を選択し、**[追加]** をクリックします。
[ステータス] セクションで、**[新規参照 - リリース]** ウィンドウが開きます。



7. **[リリース名]** フィールドで、オートコンプリートリストを使ってリリース名を指定します。

8. **[選択したリリースのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択]** で、そのリリースとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、**[OK]** をクリックします。

[参照] タブにリリースが一覧表示されます。

9. **[保存]** をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としての既存リクエストの追加

既存のリクエストにリクエストを参照させることができます。

既存のリクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

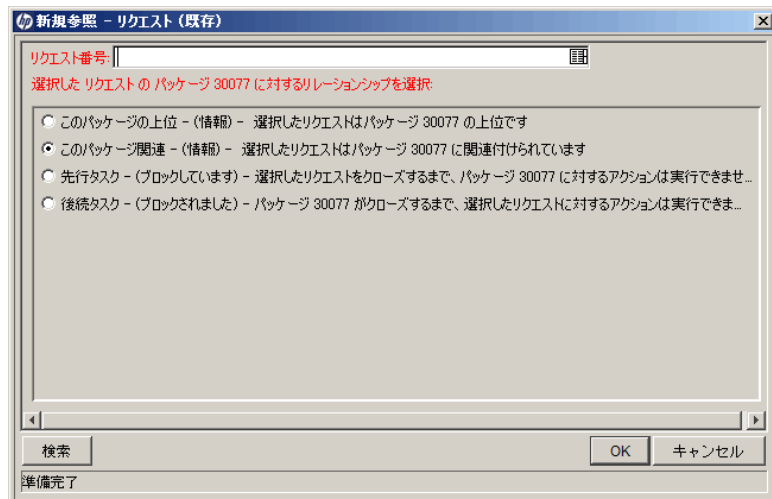
パッケージWorkbenchが開きます。

4. 参照を追加するパッケージを開きます。

5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。

6. [新規参照] リストから [リクエスト (既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - リクエスト (既存)] ウィンドウが開きます。



7. **[リクエスト番号]** フィールドで、オートコンプリートリストを使ってリクエスト名を指定します。
8. **[選択したリクエストのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択]** で、そのリクエストとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、**[OK]** をクリックします。

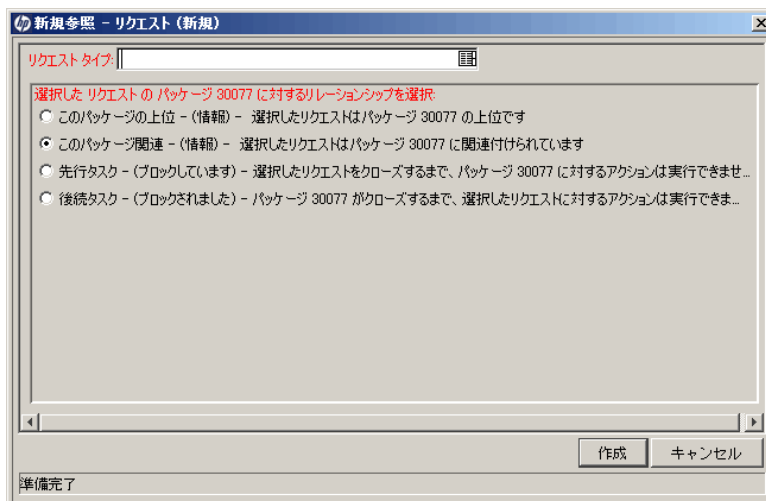
[参照] タブに、既存リクエストが一覧表示されます。
9. **[保存]** をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としての新規リクエストの追加

新しいリクエストを作成し、パッケージ参照として追加することができます。
新規リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。
PPM Workbenchが起動します。
3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
パッケージWorkbenchが開きます。
4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
6. [新規参照] リストから [リクエスト (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - リクエスト (新規)] ウィンドウが開きます。



7. [リクエストタイプ] フィールドで、オートコンプリートリストを使って作成するリクエストタイプを指定します。
8. [選択したリクエストのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、その新規リクエストとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[作成] をクリックします。

[新規リクエストの作成] ページが新しいブラウザウィンドウで表示されます。
9. すべての必須(赤のアスタリスクが付いている) フィールドを入力します。
10. オプションのフィールドと [メモ] タブで、リクエストに関してユーザに公開するその他の情報を入力します。
11. [送信] をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウの [参照] タブに、新規リクエストが一覧表示されます。
12. [保存] をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのタスクの追加

既存のタスクをパッケージへの参照として追加することができます。

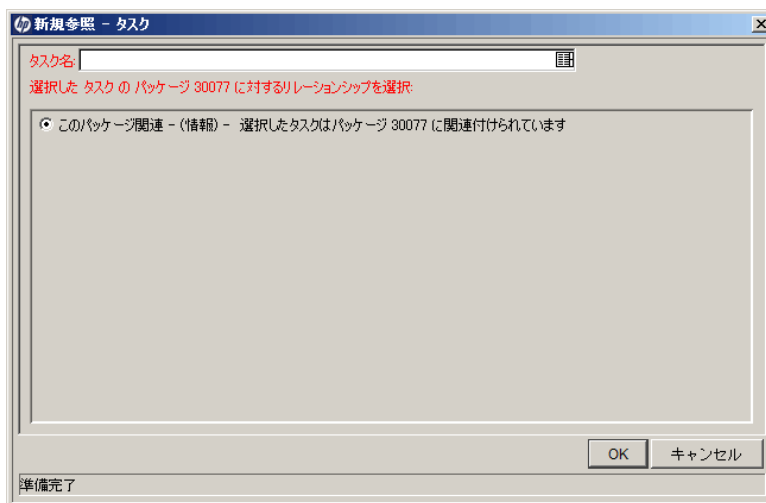
既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbench が起動します。
3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージ Workbench が開きます。
4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. [新規参照] リストで [タスク] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - タスク] ウィンドウが開きます。



6. [**タスク名**] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってタスクを指定します。
7. [**選択したタスクのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択**] で、そのタスクとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[**OK**] をクリックします。

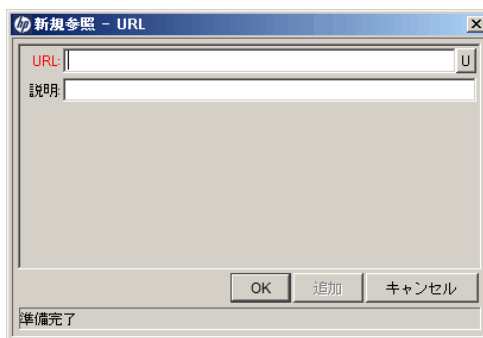
[**パッケージ**] ウィンドウの [**参照**] タブに、タスクが一覧表示されます。
8. [**保存**] をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのURLの追加

URLにパッケージを参照させることができます。

URLを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
PPM Workbenchが起動します。
3. ショートカットバーから、[Deployment Management]>[パッケージ]を選択します。
パッケージWorkbenchが開きます。
4. 参照を追加するパッケージを開きます。
5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
6. [新規参照] リストで[URL]を選択し、[追加]をクリックします。
[新規参照 - URL] ウィンドウが開きます。



7. [URL] フィールドに、URLアドレスを入力します。
8. 指定したURLをテストするため、[URL] フィールドの右側にある[U]をクリックします。
9. [説明] フィールドにURLとパッケージの関係の説明を入力し、[OK]をクリックします。
[パッケージ] ウィンドウの[参照] タブに、URLが表示されます。
10. [保存] をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージの送信

パッケージが完成したら、送信できます。完成したパッケージには、次のものがが必要です。

- パッケージ番号
- 関連付けられているワークフロー
- 少なくとも1つのパッケージ明細

パッケージが完成して送信できる状態である場合、[パッケージ] ウィンドウの左下隅で **[送信]** ボタンが有効になります。

完成したパッケージを送信するには、**[送信]** をクリックします。

4 パッケージの処理

パッケージ処理の概要

HP Deployment Management でパッケージを送信した後、処理と管理を行うことができます。パッケージの処理とは、ワークフローを通してパッケージを進めながら作業することを指します。

注意が必要なパッケージは、次の方法で検索できます。

- **パッケージWorkbenchを使用。**パッケージWorkbenchの[クエリ]タブで、パッケージを検索する検索条件を指定します。パッケージが見つかったら、強調表示して[開く]をクリックします。選択したパッケージが[パッケージ]ウィンドウで開きます。
- **標準インタフェースでポートレットを使用。**関連するパッケージを最もすばやく検索するには、標準インタフェースを使用します。PPM Dashboard ページに[マイパッケージ]ポートレットがある場合、自分が作成したパッケージと自分に割り当てられているパッケージがすべて表示されます。パッケージ番号をクリックすると、標準インタフェースでパッケージが開きます。
- **標準インタフェースで検索を使用。**標準インタフェースの検索でも、パッケージを検索できます。標準インタフェースのメニューバーで、[検索]>[パッケージ]を選択します。[パッケージの検索]ページが開きます。[パッケージの検索]ページで検索条件を入力し、[検索]をクリックします。[パッケージ検索結果]ページが開きます。[パッケージ検索結果]ページでパッケージ番号をクリックすると、標準インタフェースでパッケージが開きます。

- **通知を使用。** ワークフローを通してパッケージの処理を進めているとき、保留中のアクションを知らせる電子メール通知が送信されることがあります。通知には、パッケージへのリンクを記載できます。リンクをクリックすると、参照されたパッケージが **PPM Workbench** で開きます。現在、**PPM Center** にログインしていない場合、[ログオン] ページが開きます。
- **オープン済みのパッケージでレポートを生成 (標準インタフェース)。** **HP Deployment Management** では、**HTML** テキストを生成し、**Web** ブラウザでアクセスできる、一連のレポートがあらかじめ定義されています。これらのレポートの中に保留中のパッケージレポートがあります。このレポートには、保留中のアクティビティがあるオープン済みのパッケージが表示されます。

HP Deployment Management の各レポートの生成と表示の詳細については、『**Reports Guide and Reference**』を参照してください。

標準インタフェースからパッケージを処理する方法については、「**標準インタフェースを使ったパッケージの処理**」を参照してください。

標準インタフェースを使ったパッケージの処理

標準インタフェースの [パッケージ詳細] ページを使って、ワークフロー全体を通してパッケージを処理できます。パッケージにメモや参照を追加したり、パッケージのステータスを決定したりすることが可能です。**PPM Workbench** からパッケージを処理する方法については、「**PPM Workbench を使ったパッケージの処理**」(108 ページ)を参照してください。

標準インタフェースでのパッケージの開始

このセクションでは、標準インタフェースの [パッケージの検索] ページ、ポートレット、電子メール通知のパッケージリンクを使ってパッケージを開く方法について説明します。

[パッケージの検索] ページからのパッケージの開始

[パッケージの検索] ページを使ってパッケージを開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Deployment Management] > [パッケージの検索] を選択します。

[パッケージの検索] ページが開きます。

3. 検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

[パッケージ検索結果] ページに、指定した条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

4. [パッケージ番号] 列で、開くパッケージのパッケージ番号をクリックします。

パッケージの詳細ページが開きます。

[マイパッケージ] ポートレットからのパッケージの開始

PPM Dashboardのページに[マイパッケージ] ポートレットが表示されていない場合、追加できます。PPM Dashboardのページにポートレットを追加する方法については、『ポートレットとモジュールの作成』ガイドを参照してください。

[マイパッケージ] ポートレットを使って、作成したパッケージや割り当てられているパッケージを開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから[ダッシュボード]を選択し、[マイパッケージ] ポートレットが表示されているPPM Dashboardのページを選択します。

[マイパッケージ] ポートレットに、作成したパッケージがすべて一覧表示されます。

3. [マイパッケージ] ポートレットの[パッケージ番号]列で、開くパッケージの番号を選択します。

パッケージの詳細ページが開きます。

通知リンクを使ったパッケージの開始

パッケージがワークフローステップを経て進むにつれ、そのパッケージの保留中のアクションを知らせる電子メール通知が送信されることがあります。通知にパッケージへのリンクが記載されている場合、そのリンクをクリックすると、参照されたパッケージがPPM Workbenchで開きます(PPM Centerにログインしていない場合、[ログオン] ページが開きます)。

標準インタフェースでのパッケージの承認

標準インタフェースを使ってパッケージを承認するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。

2. 承認するパッケージを開きます。

詳細ページを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

パッケージ 30007

ヘッダー

パッケージ番号:	<input type="text" value="30007"/>	パッケージグループ:	<input type="text" value="Customization"/>	作成者:	Admin User
説明:	<input type="text" value="Patch v3 migration test"/>	作成日時:	2010/12/03		
ワークフロー:	開発 > テスト > 本番		ステータス:	進行中	

アサインされたユーザ:	<input type="text" value="Carolyn Sayer"/>	優先度:	<input type="text" value="Normal"/>	上位:	
アサイン先グループ:	<input type="text" value="PPM Deployment Manager"/>	パッケージタイプ:	<input type="text" value="Customization"/>	優先度シーケンス:	<input type="text" value="50"/>
達成率 (%):	0				

ステータス

明細の表示:	<input checked="" type="radio"/> 保留中の明細のみ	ステップの表示:	<input checked="" type="radio"/> 自分のアクションを待つステップ
	<input type="radio"/> すべての明細		<input type="radio"/> すべてのステップ

表示:

このパッケージには、表示する明細がありません。

メモ

保存時に追加されるメモ:

参照

参照の追加

新規参照:

保存時に追加される参照:

[ステータス] セクションに、ワークフローのパッケージ明細が表示されます。

3. [ステータス] セクションの [明細の表示] の横で、次のいずれかの操作を行います。

- アクションに対して適格なパッケージ明細のみを表示するには、[保留中の明細のみ]、[リフレッシュ] の順にクリックします。
- ワークフローのすべてのパッケージ明細を表示するには、[すべての明細]、[リフレッシュ] の順にクリックします。

4. [ステータス] セクションの [ステップの表示] の横で、次のいずれかの操作を行います。

- アクション待機中のワークフローステップのみを表示するには、[自分のアクションを待つステップ]、[リフレッシュ] の順にクリックします。
- すべてのワークフローステップを表示するには、[すべてのステップ]、[リフレッシュ] の順にクリックします。

表示 すべての明細			表示 すべてのステップ 期間 開発 > テスト > 本番		
シーケンス	オブジェクト名	オブジェクト タイプ			
<input type="checkbox"/>	1	TestFile	RCS サーバ ファイル	<input checked="" type="radio"/> 1: デザイン レビュー	<input checked="" type="radio"/> 2: 評価
<input type="checkbox"/>	2	Mercury Help.txt	ファイル クライアント → クライアント		
<input type="checkbox"/>	3	test	PVCS ファイル 移行		

ワークフロー名の下には、ワークフローを完了するために実行と承認が必要な番号付きステップがあります。ワークフローステップで前後にナビゲートするには、方向矢印を使用します。

5. [適格なステップの表示<ワークフロー名>] セクションで、承認する (または承認しない) 番号付きワークフローステップに対応するオプションボタンを選択し、承認する (または承認しない) 特定の明細の [適格] チェックボックスを選択します。

すべてのステップを選択するには、[すべてチェック] をクリックします。

ワークフローステップのすべての [適格] チェックボックスをクリアするには、[すべてクリア] をクリックします。

6. アクションに対して 1 つ以上のパッケージ明細を選択したら、[ワークフローアクション] をクリックします。

[パッケージ: ワークフローアクション] ページが開きます。

7. [必須アクション] セクションで、ステップの結果を選択します。

結果は設定可能であるため、サイトの設定によってワークフローステップごとに異なります。前の例では、可能なアクションは次のとおりです。

- ワークフローステップで承認の準備ができていない場合、[承認済み]を選択します。
- ワークフローステップで承認の準備ができていない場合、[未承認]を選択します。

8. [OK] をクリックします。

[パッケージ詳細] ページが開きます。選択したワークフローステップを承認した (または承認しなかった) ため、ワークフローは次のステップに進みます。このプロセスは、パッケージがすべてのステップを経て解決されるまで続きます。

標準インターフェイスでのパッケージへのメモの追加

[メモ] セクションには、パッケージの補足情報を入力するフィールドがあります。メモを追加するには、[メモの追加] サブセクションに情報を入力します。メモを保存するには、パッケージを保存します。

既存のメモの表示は、[既存のメモ] セクションで行います。既存のメモは曆順に一覧表示されます。最新のメモが一番最初に表示されます。既存のメモは、[ユーザメモのみ表示]、[メモの作成者]、[変更済みフィールド] でフィルタできます。

既存のメモを削除することはできません。

図 4-1. [メモ] セクション

メモ

メモの追加

保存時に追加されるメモ:

既存のメモ

Admin User (admin) レポートを提出
2010/12/03 16:16:54 JST

標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加

場合によっては、パッケージにWebアクセス可能なファイル、ドキュメント、ローカルマシンのファイルを参照させると便利です。このような参照をパッケージに追加するには、標準インタフェースを使用します。

パッケージ参照として追加できるエンティティは、次のとおりです。

- 添付ファイル
- パッケージ (新規または既存)
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト (新規または既存)
- タスク
- URL

参照タイプによっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、参照との機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、参照されたリクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。有効なパッケージ参照と、パッケージとのリレーションシップの詳細については、「[参照リレーションシップ](#)」(41 ページ)を参照してください。

このセクションでは、標準インタフェースからパッケージにさまざまなタイプの参照を追加する方法について説明します。PPM Workbench からパッケージ参照を追加する方法については、「[パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加](#)」(69 ページ)を参照してください。

参照としての添付ファイルの追加

添付ファイルをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。



パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(89 ページ)を参照してください。

3. [参照] セクションまでスクロールします。
4. [新規参照] リストで[添付ファイル]を選択し、[追加]をクリックします。
[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

5. [ファイル] フィールドの横にある [参照] をクリックし、参照として添付するドキュメントファイルを参照して選択します。
6. [作者] フィールドで、デフォルト値を添付ファイルの作成者名に置き換えることができます。
7. [説明] フィールドに、添付ファイルの説明を入力します。

8. **[追加]** をクリックします。

[パッケージ] ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、参照された添付ファイルが一覧表示されます。

9. **[保存]** をクリックします。

添付ファイルがリクエスト参照として追加されます。

パッケージ参照としての既存パッケージの追加

既存のパッケージにパッケージを参照させることができます。

既存のパッケージをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。

2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。

4. **[新規参照]** リストから **[パッケージ(既存)]** を選択し、**[追加]** をクリックします。

[参照の追加: パッケージ] ウィンドウが開きます。

参照の追加: パッケージ

選択したパッケージのバージョン番号 30077 に対するリリースシップを選択:

- このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30077 に関連付けられています
- リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30077 の後に実行する必要があります (両者がリリースにある場合)
- リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30077 の前に実行する必要があります (両者がリリースにある場合)
- 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30077 に対するアクションは実行できません
- 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30077 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません

パッケージ検索結果							1 - 3 / 3 を表示
パッケージ番号マ	ワークフロー	ステータス	優先度	アサイン先	パッケージ行	説明	
<input type="checkbox"/> 30029	開発 > テスト > 本番	進行中	Normal	Carolyn Sayer	3	Upgrade for release 7.0b	
<input type="checkbox"/> 30019	開発 > テスト > 本番	新規	Normal	Carolyn Sayer	3	Patch v3 migration test	
<input type="checkbox"/> 30007	開発 > テスト > 本番	進行中	Normal	Carolyn Sayer	3	Patch v3 migration test	

すべてチェック すべてクリア

1 - 3 / 3 を表示

追加 検索の変更 キャンセル

5. 検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

[パッケージ検索結果] セクションに、検索条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

6. 参照として追加するパッケージのチェックボックスを選択し、[追加] をクリックします。

[パッケージ] ページの [保存時に追加される参照] フィールドに、参照されたパッケージが一覧表示されます。

7. [保存] をクリックします。

パッケージ参照としての新規パッケージの追加

新しいパッケージにパッケージを参照させることができます。

パッケージ参照として新しいパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。

2. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。

4. **[新規参照]** リストから **[パッケージ (新規)]** を選択し、**[追加]** をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。

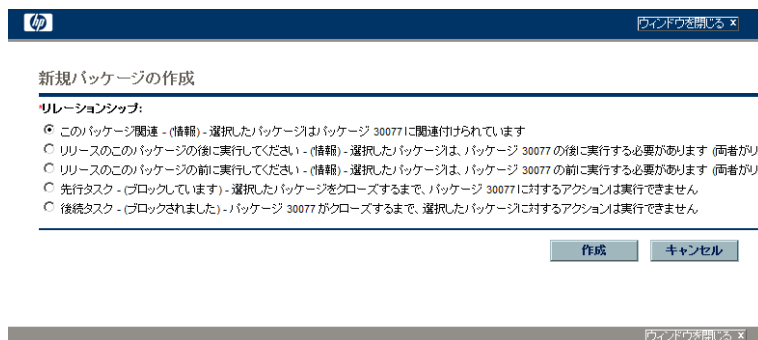
5. **[リレーションシップ]** で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。

6. **[Select which Relationship the new Package will have to Package # (新しいパッケージのパッケージ番号に対するリレーションシップを選択)]** で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。

参照リレーションシップのさまざまなタイプの詳細については、「[参照リレーションシップ](#)」(41 ページ)を参照してください。

7. **[作成]** をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。



8. **[ワークフロー]** フィールドに、新しいパッケージに適用するワークフローの名前を入力します。

9. 保存するオプションの情報を入力し、値を変更して、**[保存]** をクリックします。

[パッケージ] ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、新しい参照されたパッケージが一覧表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。

パッケージ参照としてのプログラムの追加

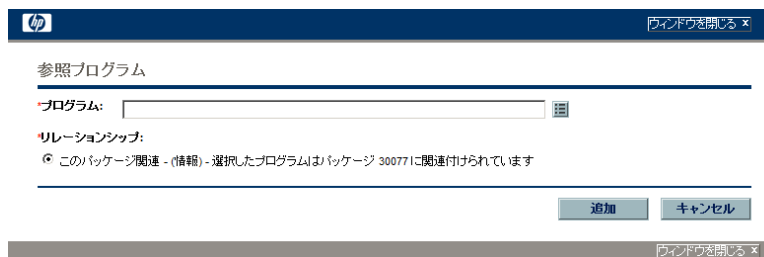
既存のプログラムにパッケージを参照させることができます。

プログラムをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。
4. **[新規参照]** リストで **[プログラム]** を選択し、**[追加]** をクリックします。
[参照プログラム] ウィンドウが開きます。



5. **[プログラム]** フィールドでプログラム名を指定するには、オートコンプレットリストから名前を選択して **[追加]** をクリックします。

[パッケージ] ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、選択したプログラムが一覧表示されます。

6. **[保存]** をクリックします。

パッケージ参照としてのプロジェクトの追加

プロジェクトをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。
4. **[新規参照]** リストで**[プロジェクト]**を選択し、**[追加]**をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウが開きます。

参照の追加: プロジェクト

表示するプロジェクトの検索

プロジェクト名 (含む): プロジェクト マネージャ:

プロジェクト タイプ:

計画開始日が次の日から: 次の日まで:

計画終了日が次の日から: 次の日まで:

終了したプロジェクトを含める: はい いいえ

ヘルス: なし

関連付けられたプログラム:

地域:

ソート基準: 昇順 降順 1ページ当たりの表示結果数:

5. 1つ以上の利用可能なフィールドに検索条件を入力し、**[検索]**をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウに、指定した検索条件に一致するプロジェクトが一覧表示されます。

6. **[表示するプロジェクトの選択]** セクションで、パッケージ参照として追加するプロジェクトのチェックボックスを選択します。

7. **[追加]** をクリックします。

[パッケージ] ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、参照されたプロジェクトが一覧表示されます。

8. **[保存]** をクリックします。

パッケージ参照としてのリリースの追加

既存のリリースをパッケージ参照として追加することができます。

既存のパッケージにパッケージを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。

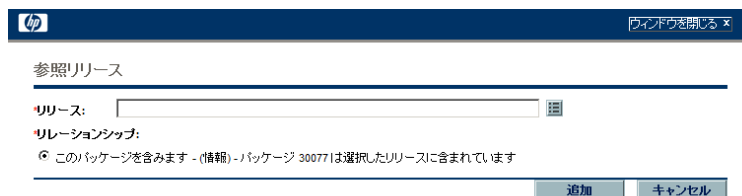
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。

4. **[新規参照]** リストで **[リリース]** を選択し、**[追加]** をクリックします。

[参照リリース] ウィンドウが開きます。



5. **[リリース]** フィールドでリリース名を指定するには、オートコンプリートリストから名前を選択して **[追加]** をクリックします。

[パッケージ] ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、参照されたリリースが一覧表示されます。

6. **[保存]** をクリックします。

パッケージ参照としての既存リクエストの追加

既存のリクエストにパッケージを参照させることができます。

既存のリクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。
4. **[新規参照]** リストから **[リクエスト (既存)]** を選択し、**[追加]** をクリックします。

[参照の追加: リクエスト] ウィンドウが開きます。

5. リクエストの検索条件を入力し、**[検索]** をクリックします。

参照の追加: リクエスト

選択した リクエスト の パッケージ 番号 30077 に対するリレーションシップを選択:

- このパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30077 の上位です
- このパッケージ関連 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30077 に関連付けられています
- 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、パッケージ 30077 に対するアクションは実行できません
- 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30077 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行できません

リクエスト検索結果							1 - 3 / 3 を表示
<input type="checkbox"/>	リクエスト番号	リクエスト タイプ	説明	ステータス	アサイン先	優先度	作成者
<input type="checkbox"/>	30181	Program Issue	JPN-LQAing	新規	casyer casyer	Normal	Admin User
<input type="checkbox"/>	30162	Project Issue	test entry for capture of ResultNextof icon	新規	casyer casyer	Normal	Admin User
<input type="checkbox"/>	30158	Program Issue	JPN-LQAing	開ク	casyer casyer	Normal	Admin User

1 - 3 / 3 を表示

6. [選択したリクエストのパッケージ番号に対するリレーションシップを選択] で、新しいリクエストと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。

参照リレーションシップのさまざまなタイプの詳細については、「参照リレーションシップ」(41 ページ)を参照してください。

7. パッケージ参照として追加するリクエストのチェックボックスを選択し、[追加] をクリックします。

[パッケージ] ページの [保存時に追加される参照] フィールドに、参照されたリクエストが一覧表示されます。

8. [保存] をクリックします。

パッケージ参照としての新規リクエストの追加

新規リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(89 ページ)を参照してください。

3. [参照] セクションまでスクロールします。
4. [新規参照] リストから [リクエスト (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規リクエストの作成] ウィンドウが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "新規リクエストの作成" (New Request Creation). At the top, there is a "リクエスト タイプ:" (Request Type) dropdown menu. Below it, the "リレーションシップ:" (Relationship) section contains four radio button options:

- このパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30077 の上位です
- このパッケージ関連 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30077 に関連付けられています
- 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、パッケージ 30077 に対するアクションは実行できません
- 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30077 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行できません

At the bottom right, there are two buttons: "作成" (Create) and "キャンセル" (Cancel).

5. **[リクエストタイプ]** リストから、開いたパッケージへの参照として作成するリクエストのタイプを選択します。

6. **[リレーションシップ]** で、新しいリクエストと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。

参照タイプとその定義、可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「[参照リレーションシップ](#)」(41 ページ)を参照してください。

7. **[作成]** をクリックします。

[新規<**リクエストタイプ**>の作成] ウィンドウが開きます。

8. すべての必須 (赤のアスタリスクが付いている) フィールドにデータを入力し、新しいリクエストについて記録するオプションのデータを入力します。

9. **[送信]** をクリックします。

[パッケージ] ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、新しいリクエストが一覧表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。

パッケージ参照としてのタスクの追加

既存のタスクにパッケージを参照させることができます。

既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「[標準インタフェースでのパッケージの開始](#)」(89 ページ)を参照してください。

3. **[参照]** セクションまでスクロールします。
4. **[新規参照]** リストで**[タスク]**を選択し、**[追加]**をクリックします。

[参照の追加: タスク] ウィンドウが開きます。

5. 利用可能なフィールドに検索条件を入力し、**[検索]**をクリックします。

[参照の追加: タスク] ウィンドウに、指定した検索条件に一致するタスクが一覧表示されます。

6. **[表示するタスクの選択]** セクションで、開いたパッケージに参照として追加するタスクのチェックボックスを選択し、**[追加]**をクリックします。

[パッケージ] ページの [保存時に追加される参照] フィールドに、選択したタスクが一覧表示されます。

7. [保存] をクリックします。

パッケージ参照としてのURLの追加

既存のURLにパッケージを参照させることができます。

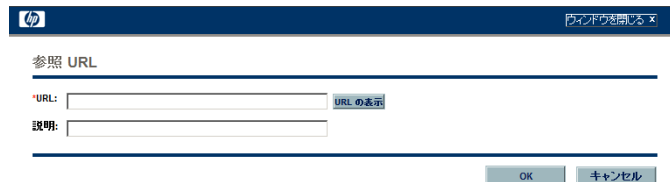
URLをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(89 ページ)を参照してください。

3. [参照] セクションまでスクロールします。
4. [新規参照] リストで [URL] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照URL] ウィンドウが開きます。



5. [URL] フィールドに、URLアドレスを入力します。
6. 指定したURLをデフォルトのブラウザウィンドウでテストするため、[URL] フィールドの右側にある [U] をクリックします。
7. [説明] フィールドにURLとパッケージの関係の説明を入力します。

8. [OK] をクリックします。

[パッケージ] ページの [保存時に追加される参照] フィールドに、指定した URL が一覧表示されます。

9. [保存] をクリックします。

PPM Workbench を使ったパッケージの処理

PPM Workbench で送信済みのパッケージを処理するには、[パッケージ] ウィンドウを使用します。[パッケージ] ウィンドウから、ワークフローを通して送信済みのパッケージを処理できます。パッケージへのメモや参照の追加、パッケージのステータスの決定、パッケージに対するアクションの実行が可能です。また、[パッケージ] ウィンドウからパッケージの変更や削除もできます。

PPM Workbench からのパッケージの開始

PPM Workbench からパッケージを開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。

2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbench を開く] を選択します。

PPM Workbench が起動します。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージ Workbench が開きます。

4. すべての既存パッケージを表示するには、[リスト] をクリックします。

検索を絞り込むには、1つ以上の検索フィールドに情報を入力します。

5. 表示されているパッケージを選択し、[開く] をクリックします。

パッケージのステータスの確認

各パッケージ明細は、割り当てられているワークフローによって定義されたビジネスプロセスに従う必要があります。各明細のすべてのワークフローおよびサブワークフローは、[パッケージ] ウィンドウの **[ステータス]** タブで表示できます。

送信済みパッケージのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. 送信済みパッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「[PPM Workbench からのパッケージの開始](#)」(108 ページ)を参照してください。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

2. **[ステータス]** タブをクリックします。
3. パッケージのステータスを確認します。

ここで、各パッケージ明細のステータスを確認できます。各ワークフローステップの結果はパッケージ明細行に記録されており、どの明細が正常終了してクローズまたは失敗してクローズしたかをすばやく把握できるようになっています。

ワークフローステップは一覧表示されていますが、解決までにパッケージ明細がすべてのステップを経る必要はありません。たとえば、再作業が必要な場合のみ使用する再作業用のステップがある場合もあります。パッケージの詳細については、そのパッケージに関するログ、ビュー、レポートのいずれかを選択してください。**[ステータス]** タブの詳細については、「[\[パッケージ\] ウィンドウの \[ステータス\] タブ](#)」(34 ページ)を参照してください。

「適格」なステップの実行

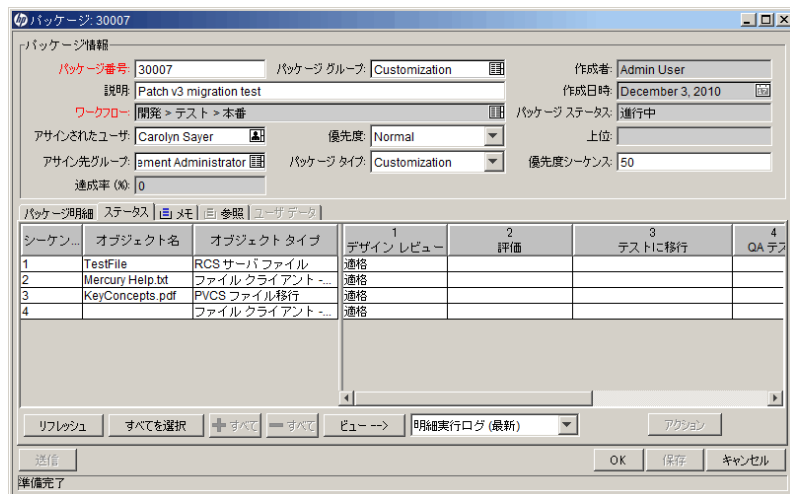
パッケージを送信すると、各パッケージ明細の1つ以上のワークフローステップが**「適格」**に設定されます(110ページの図 4-2を参照)。これは、パッケージの解決プロセスにおいて、まず実行または意思決定ステップを実行する必要がありますを示しています。適格なステップを実行する権限がある場合、**「ステータス」**列のテキストは太字で表示されます。

適格なステップによって、必要な操作は異なります。

- 「実行」ワークフローステップの場合、アクションを実行する必要があります。
- 「意思決定」ワークフローステップの場合、意思決定を行う必要があります。

アクションの実行または意思決定を行うと、HP Deployment Managementによって結果が表示されます。

図 4-2. 「ステータス」タブの適格なステップ



ワークフローステップの処理

ワークフローステップを処理するには、次の手順を実行します。

1. 送信済みパッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「[PPM Workbenchからのパッケージの開始](#)」(108 ページ)を参照してください。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

2. [ステータス] タブをクリックします。
3. 1つ以上のパッケージ明細を選択します。

1つのパッケージ明細に対しては1つのステップを、複数の明細に対しては複数のステップを選択できます。アクションに対して適格なすべてのパッケージ明細に対してすべてのステップを選択するには、[すべてを選択] をクリックします。

一度に複数のワークフローステップを実行することはできません。複数のワークフローステップのセルを選択すると、[アクション] ボタンは無効のままです。指定したワークフローステップを実行するためのセキュリティ権があれば、ボタンは有効になります。

実行のためのセキュリティ権限があるワークフローステップを選択すると、[ステータス] タブの右下にあるボタンのラベルが [アクション] からワークフローステップ名に変わります。

4. 選択したステップに対してアクションまたは意思決定を実行するには、[アクション] をクリックします。

[意思決定] ウィンドウまたは [実行] ウィンドウが開きます。

各ステップに選択した有効な結果が設定されています。

5. [意思決定] ウィンドウが開いている場合、[結果] リストから意思決定結果を選択します。[実行] ウィンドウが開いている場合、リストから [今すぐ実行]、[実行のスケジュール]、[実行のバイパス] のいずれかを選択します。

6. [メモ] フィールドに、保存するコメントを入力できます。

[意思決定] ウィンドウの詳細については、「[意思決定ワークフローステップの実行](#)」(113 ページ)を参照してください。[実行] ウィンドウの詳細については、「[実行ワークフローステップの実行](#)」(115 ページ)を参照してください。

7. [OK] をクリックします。

意思決定ステップでも実行ステップでも、ステップの結果はワークフローエンジンによって処理され、多くの変更が発生することがあります。ワークフロー定義ではワークフローおよびサブワークフローが複数存在することがあり、この定義に基づき、特定のワークフローステップの結果によってほかのワークフローステップが適格になることがあります。その場合は、パッケージ解決プロセスにおいて、次のアクションが実行されます。

後続ステップが適格になった場合は順番に実行され、次のワークフローステップが適格になります。このプロセスは、パッケージが最終状態(通常はクローズステップ)に到達するまで続行されます。

意思決定ワークフローステップの実行

意思決定ワークフローステップは、ユーザまたはグループが結果を指定する必要があるステップです。たとえば、「移行の承認」は、意思決定ワークフローステップの例です。自分で意思決定ステップを実行するか、意思決定を委任することができます。

意思決定ワークフローステップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [パッケージ] ウィンドウで、[ステータス] タブを選択します。

シーケン...	オブジェクト名	オブジェクトタイプ	1 デザイン レビュー	2 評価	3 テストに移行	4 QA テス
1	TestFile	RCSサーバファイル	合格			
2	Mercury Help.txt	ファイルクライアント...	合格			
3	KeyConcepts.pdf	PVCSファイル移行	合格			
4		ファイルクライアント...	合格			

2. 適格な意思決定ワークフローステップを選択します。

[ステータス] タブにアクセスして適格な意思決定ワークフローステップを選択する方法については、「[「適格」なステップの実行](#) (110 ページ) を参照してください。

選択したステップに基づき、[アクション] ボタンのラベルが変更されます。たとえば、[QAテスト] [適格] をクリックすると、[アクション] ボタンのラベルが「QAテスト」に変わります。



[ステータス] タブに [アクション] ボタンが表示されない場合、セキュリティグループはそのワークフローステップに割り当てられていません。

3. [アクション] ボタンをクリックします。ステップ2の例では、[QAテスト] をクリックします。

[QAテストパッケージの意思決定] ウィンドウが開きます。

4. リストから必要な該当するアクション ([今すぐ決定] または [意思決定の委任]) を選択します。

- [今すぐ決定] を選択した場合、意思決定ワークフローステップに関する意思決定を行う必要があります (例: [承認])。意思決定ワークフローステップに関する意思決定を行うには、次の手順を実行します。

- a. [結果] リストで、結果を選択します。

- b. [メモ] フィールドに自分の意思決定に関する情報を入力し、[OK] をクリックします。

[意思決定] ウィンドウが閉じます。意思決定結果が [ステータス] タブに追加されます。

- [意思決定の委任] を選択した場合、意思決定をほかのユーザに割り当てる必要があります。意思決定を委任するには、次の手順を実行します。

- a. [委任先] オートコンプリートリストを使ってリソースを選択します。

- b. [メモ] フィールドに必要な意思決定に関する情報を入力し、[OK] をクリックします。

[意思決定] ウィンドウが閉じ、結果が [ステータス] タブに一覧表示されます。

5. [OK] をクリックします。

意思決定がシステムに投入されます。複数のユーザが結果について意思決定を行うようにワークフローステップが設定されている場合、必要なすべての意思決定が行われるまで、パッケージ明細は次のステップに進めません。意思決定ワークフローステップにおいて複数のユーザが結果について意思決定を行う必要がある場合、[決定の詳細] ビューを使って、そのワークフローステップの現在の意思決定結果を表示できます。

実行ワークフローステップの実行

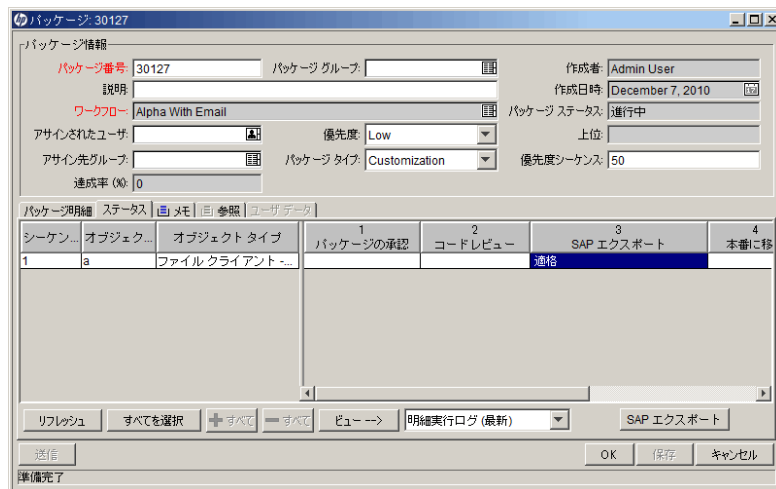
実行ワークフローステップでは、HP Deployment Management システムによってアクションが実行され、ステップの結果が更新されます。これらのアクションはトークン値の計算のように単純な場合も、ファイルのコピー、プログラムの実行、Web ページの更新のように複雑な場合もあります。

実行ワークフローステップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [パッケージ] ウィンドウの [**ステータス**] タブで、適格な意思決定ワークフローステップを選択します。

[ステータス] タブにアクセスして適格な意思決定ワークフローステップを選択する方法については、「[「適格」なステップの実行 \(110 ページ\)](#)」を参照してください。

[**アクション**] ボタンが有効になります。選択したステップに基づき、ボタンのラベルが変更されます。次の例では、[アクション] ボタンのラベルが「SAPエクスポート」に変わります。



2. [**ステータス**] タブで [アクション] ボタン (この例では [**SAPエクスポート**]) をクリックします。

[SAPエクスポート実行] ウィンドウが開きます。

3. リストから [**今すぐ実行**]、[**実行のスケジュール**]、[**実行のバイパス**] のいずれかを選択します。
- [**今すぐ実行**] を選択して [**OK**] をクリックすると、ワークフローステップが実行されます。[実行] ウィンドウが閉じます。ワークフローステップの結果がワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。このプロセスは、ソフトウェアの移行、PL/SQL 関数の実行、パッケージ明細のクローズ、その他のアクティビティで発生する可能性があります。実行エンジンによってステップが実行され、結果が設定されます。
 - [**実行のスケジュール**] を選択した場合、[**実行日**] および [**実行時間**] フィールドが表示されます。日時を選択し、[**OK**] をクリックします。[実行] ウィンドウが閉じます。実行スケジュールがワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。このプロセスは、ソフトウェアの移行、PL/SQL 関数の実行、パッケージ明細のクローズ、その他のアクティビティで発生する可能性があります。実行エンジンによってステップが実行され、結果が設定されます。
 - [**実行のバイパス**] を選択した場合、[**実行結果**] フィールドが表示されず、結果を選択し、[**OK**] をクリックします。[実行] ウィンドウが閉じ、選択した結果がワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。
4. [**OK**] をクリックします。

メモの追加

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ (図 4-3) には、その他のパッケージ情報が表示されます。

図 4-3. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

The screenshot shows a window titled "パッケージ: 30007" with the following fields and values:

パッケージ番号:	30007	パッケージグループ:	Customization	作成者:	Admin User
説明:	Patch v3 migration test	作成日時:	2010/12/03	パッケージステータス:	進行中
ワークフロー:	開発 > テスト > 本番	優先度:	Normal	上位:	
アサインされたユーザ:	Carolyn Sayer	パッケージタイプ:	Customization	優先度シーケンス:	50
アサイン先グループ:	ament Administrator	達成率 (%):	0		

The "メモ" (Memo) tab is selected, showing a list of "既存のメモ" (Existing Memos) and a "新規メモ" (New Memo) field. The existing memo list contains one entry:

Admin User (admin)
2010/12/03 16:16:54 JST
レポートを提出

Buttons at the bottom include "送信" (Send), "OK", "保存" (Save), and "キャンセル" (Cancel). A "準備完了" (Ready) status is shown at the bottom left.

メモを追加するには、[新規メモ] フィールドにテキストを入力し、[保存] をクリックします。[既存のメモ] フィールドにメモが追加されます。

参照の追加、更新、削除

パッケージ参照の追加や更新は、PPM Workbenchの[パッケージ]ウィンドウの[参照]タブで行うことができます。次の各セクションでは、参照を追加、更新、削除する方法について説明します。

参照の追加

[パッケージ]ウィンドウの[参照]セクションには、その他のパッケージ情報があります。たとえば、パッケージに参照としてドキュメントやURLを追加できます。パッケージ参照として追加できるエンティティは、次のとおりです。

- 添付ファイル
- パッケージ (新規および既存)
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト (新規および既存)
- タスク
- URL

参照によっては(リクエスト、その他のパッケージなど)、元のパッケージとの機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。参照と可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「[参照リレーションシップ](#)」(41 ページ)を参照してください。

参照を追加する方法については、「[パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加](#)」(69 ページ)または「[標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加](#)」(94 ページ)を参照してください。

参照リレーションシップの更新

PPM Workbench から既存の参照リレーションシップを更新するには、次の手順を実行します。

1. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「[PPM Workbench からのパッケージの開始](#)」(108 ページ)を参照してください。

2. **[参照]** タブをクリックします。
3. 参照されたエンティティの **[リレーションシップ]** フィールドをクリックし、表示されているリストから項目を選択します。

The screenshot shows the 'Package Information' window for package 30007. The fields are as follows:

パッケージ番号	30007	パッケージグループ	Customization	作成者	Admin User
説明	Patch v3 migration test			作成日時	December 3, 2010
ワークフロー	開発 > テスト > 本番			パッケージステータス	進行中
アサインされたユーザ	Carolyn Sayer	優先度	Normal	上位	
アサイン先グループ	Management Administrator	パッケージタイプ	Customization	優先度シークエンス	50
達成率 (%)	0				

Below the fields is a table with columns: タイプ, 名前, 詳細, ステータス, 達成率 (%), 説明, リレーションシップ.

タイプ	名前	詳細	ステータス	達成率 (%)	説明	リレーションシップ
パッケージ	30019	開発 > テスト > 本番	新規	0%	Patch v3 mi...	このパッケージに関連 このパッケージに関連 リリースのこのパッケージの後に実行してください リリースのこのパッケージの前に実行してください 先行タスク 後続タスク

At the bottom, there are buttons for '新規参照', '添付ファイル', '追加', '削除', '参照を開く', '送信', 'OK', '保存', 'キャンセル', and a status bar indicating '準備完了'.

4. **[OK]** または **[保存]** をクリックします。

パッケージに加えた変更が保存されます。

参照の削除

PPM Workbenchから参照を削除するには、次の手順を実行します。

1. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「[PPM Workbenchからのパッケージの開始](#)」(108 ページ)を参照してください。

2. **[参照]** タブをクリックします。
3. 参照を選択し、**[削除]** をクリックします。

参照が削除されます。

4. **[保存]** をクリックして、参照の削除を確認します。

5. 操作を取り消して参照の削除をキャンセルするには、**[キャンセル]** をクリックします。

進行中のパッケージへのパッケージ明細の追加

送信済みのパッケージにパッケージ明細を追加することができます。パッケージ明細を追加できるのは、ステータスが**[進行中]** のパッケージに対してです。この方法については、「[パッケージへの明細の追加](#)」(64 ページ)を参照してください。

新しいパッケージ明細は、パッケージを保存するまで送信されません。パッケージを保存すると、新しいパッケージ明細はワークフローの最初のステップに送信され、そのパッケージのほかの明細に追いつくまで、個別に処理できます。送信した時点で、新しいパッケージ明細にはほかの明細と同じステータスが自動的に割り当てられるわけではありません。

5 パッケージの管理

HP Deployment Managementでのパッケージの管理

HP Deployment Management でパッケージを送信した後は、パッケージの処理と管理を行うことができます。パッケージの管理では、パッケージのコピー、マージ、グループ化、編集、削除、パッケージグループの変更、パッケージ明細のキャンセルを行います。次の各セクションでは、パッケージのコピー以外のすべてのタスクについて説明します。パッケージのコピー手順については、「既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成」(57 ページ)を参照してください。

パッケージのマージ

2つ以上の既存のパッケージをマージすることで、新しいパッケージを生成できます。この方法は、複数のパッケージ内にある特定のパッケージ明細で構成される単一パッケージを生成する場合に役立ちます。

2つのパッケージをマージするには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbench を開く]** を選択します。

PPM Workbench が起動します。

3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。

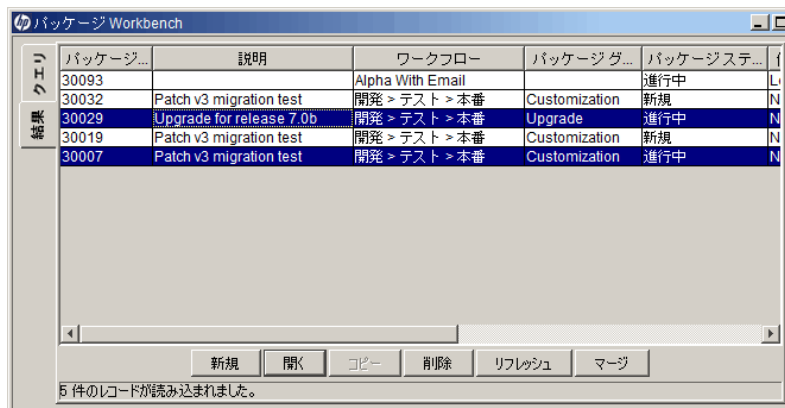
パッケージ Workbench が開きます。

4. [クエリ] タブで、[リスト] をクリックします。

[結果] タブに、既存のパッケージがすべて表示されます。

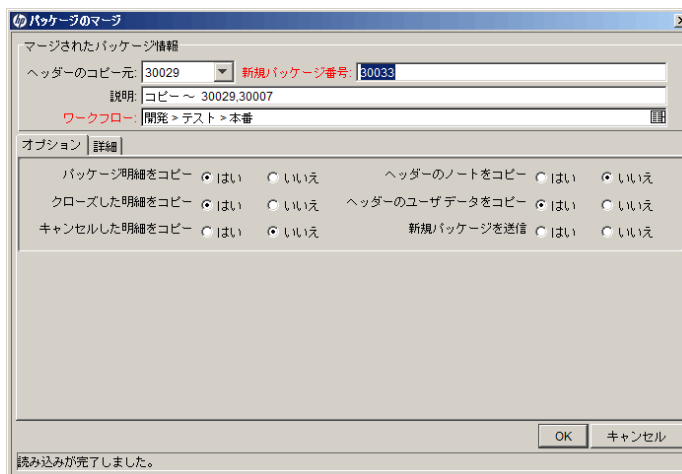
5. マージするパッケージを選択します。

隣接しない行を選択するには、[Ctrl] キーを使用します。隣接する行を選択するには、[Shift] キーを使用します。



6. [結果] タブで [マージ] をクリックします。

[パッケージのマージ] ウィンドウで [オプション] タブが表示されます。



7. [新規パッケージ番号] フィールドで、生成されたパッケージ番号をそのまま使用するか、別の一意のパッケージ番号を入力します。

8. [ワークフロー] フィールドで、デフォルトのワークフロー名をそのまま使用するか、オートコンプリートリストで別の名前を選択します。
9. [オプション] タブで、表示されているオプションに対して [はい] か [いいえ] を選択します。
10. [OK] をクリックします。

パッケージ Workbench により、新しい (マージした) パッケージを編集するかどうかを指定するよう求められます。

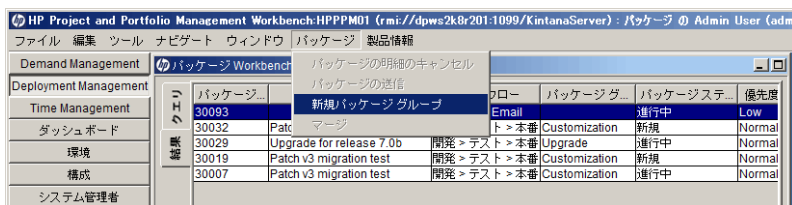
11. パッケージを編集するには、[はい] をクリックします。パッケージを保存して閉じるには、[いいえ] をクリックします。

新規パッケージグループの作成

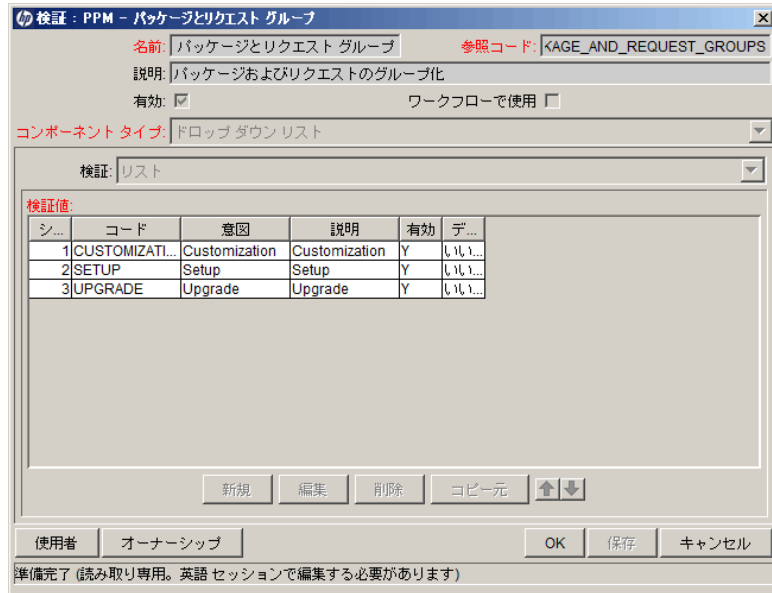
一般的に、トラッキングとレポートを目的として、新しいパッケージをパッケージグループにリンクすると便利です。パッケージをパッケージグループにリンクすると、パッケージの検索やカスタムポートレットの作成にパッケージグループを使用できます。パッケージ Workbench から、新しいパッケージグループを作成します。

パッケージグループを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbench を開く] を選択します。
PPM Workbench が起動します。
3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
パッケージ Workbench が開きます。
4. [パッケージ] メニューから、[新規パッケージグループ] を選択します。

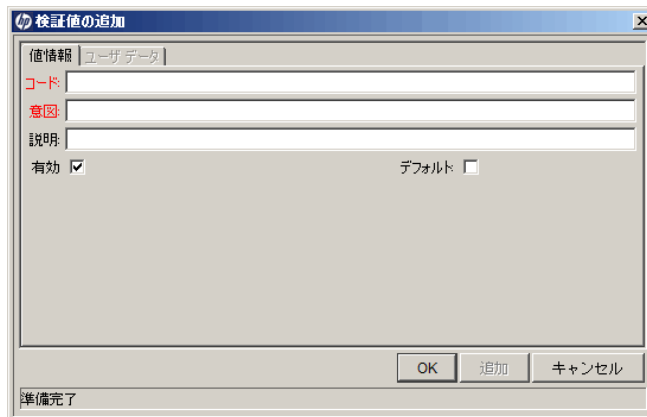


[検証: PPM - パッケージとリクエストグループ] ウィンドウが開き、パッケージとリクエストの既存グループが表示されます。



5. [新規] をクリックします。

[検証値の追加] ウィンドウで [値情報] タブが表示されます。



6. [コード] フィールドで、[パッケージグループ] リストの新しい項目のトークン名を入力します。

7. [意図] フィールドで、[パッケージグループ] リストのこの項目に表示する名前を入力します。

8. [説明] フィールドに、パッケージの簡単な説明を入力します。
9. 新しいリスト値を向こうにするには、[有効] チェックボックスをクリアします。
10. この値が [パッケージグループ] リストでデフォルトで選択されるようにするには、[デフォルト] チェックボックスを洗濯します。
11. [OK] をクリックします。

パッケージグループの編集

PPM Workbenchから、既存のパッケージグループを編集できます。[PPMパッケージとリクエストグループの検証] リストを変更できるのは、必要なアクセス許可とセキュリティ権限がある場合のみです。HP Deployment Managementでパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

パッケージグループを追加または編集する前に、アプリケーション管理者に相談してください。通常、パッケージグループの生成は、特定のビジネスアプリケーション基準に沿って行われます。

パッケージグループを編集するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

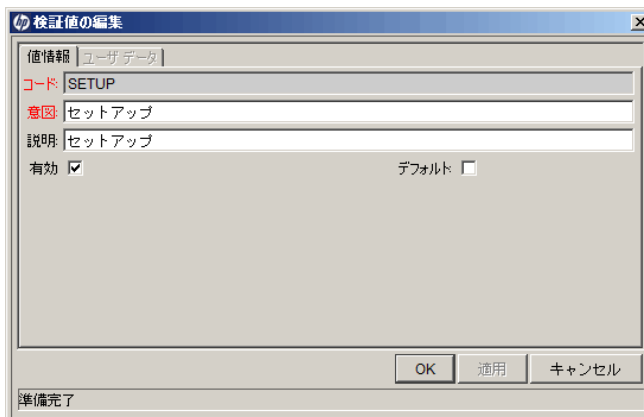
3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [パッケージ] > [新規パッケージグループ] を選択します。

[検証: PPM - パッケージとリクエストグループ] ウィンドウが開き、既存のパッケージグループが表示されます。

5. 変更するパッケージグループを選択して、[編集] をクリックします。
[検証値の編集] ウィンドウが開きます。



6. 必要に応じてフィールドの値を編集し、[OK] をクリックします。

新しい検証が [検証: PPM - パッケージとリクエストグループ] ウィンドウに追加されます。

7. [OK] をクリックします。

パッケージの削除

パッケージWorkbenchからパッケージを削除できます。

パッケージを削除するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[Workbenchを開く]** を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、**[Deployment Management]** > **[パッケージ]** を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. すべてのパッケージのリストを表示するには、**[クエリ]** タブで **[リスト]** をクリックします。

[結果] タブにパッケージリストが表示されます。

5. 削除するパッケージを選択して、**[削除]** をクリックします。



隣接しない行を選択するには、**[Ctrl]** キーを押したまま選択します。隣接する行を選択するには、**[Shift]** キーを押したまま選択します。

パッケージWorkbenchにより、パッケージの削除を確認するよう求められます。

6. **[はい]** をクリックします。

パッケージ明細のキャンセル

場合によっては、ファイルが古かったり不要になったりして、パッケージ明細をキャンセルすることがあります。パッケージ明細をキャンセルするには、パッケージWorkbenchを使用します。

パッケージ明細をキャンセルするには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが起動します。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. すべてのパッケージのリストを表示するには、[クエリ] タブで [リスト] をクリックします。

[結果] タブにリストが表示されます。

5. キャンセルする明細を含むパッケージを選択し、[開く] をクリックします。
[パッケージ] ウィンドウが開きます。

6. [パッケージ明細] タブで、キャンセルするパッケージ明細を選択します。

7. メニューバーから [パッケージ] > [パッケージの明細のキャンセル] を選択します。



索引

D

Demand Management

Deployment Management との統合, [20](#)

Demand Management との統合, [20](#)

Deployment Management, [20](#)

Workbench の使用, [13](#)

サードパーティアプリケーションとの統合, [20](#)

統合, [19](#)

バージョン制御との統合, [19](#)

パッケージ, [10](#)

標準インタフェースの使用, [13](#)

プロセス, [10](#)

U

URL

Workbench でパッケージに追加, [85](#)

パッケージに追加, [107](#)

W

Workbench

パッケージの処理, [108](#)

Workbench でのパッケージのマージ, [121](#)

あ

アクセス

Workbench でのパッケージ実行履歴にアクセス, [36](#)

Workbench でパッケージのグラフィックビューにアクセス, [36](#)

Workbench でパッケージの決定の詳細にアクセス, [38](#)

Workbench でパッケージのワークフローステップ情報の URL にアクセス, [38](#)

Workbench でパッケージ明細実行ログにアクセス, [35](#)

Workbench でパッケージ明細の権限にアクセス, [37](#)

Workbench でパッケージ明細のトランザクション履歴にアクセス, [38](#)

い

意思決定ワークフローステップ, [16](#)

お

オブジェクトタイプ

Workbench での定義, [52](#)

カスタムオブジェクトの定義, [15](#)

定義, [14](#)

定義する場所, [26](#)

標準オブジェクトの定義, [15](#)

マイグレータの定義, [15](#)

か

カスタムオブジェクトタイプの定義, [15](#)

環境

環境 Workbench での確認, **51**
デプロイ管理, **18**
パッケージに対する定義, **48**

環境 Workbench, **51**

管理

Workbench でパッケージを管理, **121**

き

キャンセル

Workbench でパッケージ明細をキャンセル, **128**

こ

更新

Workbench でパッケージ参照を更新, **118**

後続タスクの参照リレーションシップ, **41, 46**

コピー

Workbench でのパッケージの作成, **57**

さ

削除

Workbench でパッケージ参照を削除, **120**
Workbench でパッケージを削除, **127**

作成

Workbench でコピーを使ってパッケージを作成, **57**
Workbench でパッケージグループを作成, **123**
Workbench でパッケージを作成, **55**
Workbench でパッケージを参照として作成, **60, 62**
パッケージ, **47**

サブワークフローワークフローステップ, **16**

参照

Workbench でのパッケージの作成, **60, 62**
Workbench でパッケージから削除, **120**

Workbench でパッケージに URL を追加, **85**

Workbench でパッケージに既存パッケージを追加, **72**

Workbench でパッケージに既存リクエストを追加, **80**

Workbench でパッケージにタスクを追加, **83**

Workbench でパッケージに追加, **69, 118**

Workbench でパッケージにパッケージを追加, **73**

Workbench でパッケージにプログラムを追加, **75**

Workbench でパッケージにリクエストを追加, **82**

Workbench でパッケージにリリースを追加, **78**

Workbench でパッケージを更新, **118**

Workbench でプロジェクトにパッケージを追加, **76**

後続タスクリレーションシップ, **41, 46**

先行タスクリレーションシップ, **41, 46**

パッケージに URL を追加, **107**

パッケージに既存の参照を追加, **103**

パッケージに既存パッケージを追加, **96**

パッケージにタスクを追加, **106**

パッケージに追加, **94**

パッケージにパッケージを追加, **98**

パッケージにプログラムを追加, **100**

パッケージにプロジェクトを追加, **101**

パッケージにリクエストを追加, **104**

パッケージにリリースを追加, **102**

パッケージのリレーションシップ, **41**

標準インターフェイスでパッケージに添付ファイルを追加, **95**

リレーションシップリスト, **42**

し

実行ワークフローステップ, **16**

条件ワークフローステップ, **16**

承認

パッケージ, **90**

[職務分掌] タブ, **50**

処理

Workbench で意思決定を通してパッケージを処理, **113**

Workbench で実行を通してパッケージを処理, **115**

Workbench でパッケージを処理, **108, 110**

Workbench でワークフローステップを通してパッケージを処理, **110**

パッケージ, **88**

せ

設定

Workbench でパッケージグループを設定, **125**

Workbench でのパッケージの一般情報を設定, **63**

Workbench でパッケージ明細を設定, **64**

先行タスクの参照リレーションシップ, **41, 46**

そ

送信

Workbench でパッケージを送信, **86**
パッケージ, **86**

た

タスク

Workbench でパッケージに追加, **83**
パッケージに追加, **106**

つ

追加

Workbench で URL をパッケージに追加, **85**

Workbench で進行中のパッケージにパッケージ明細を追加, **120**

Workbench でタスクをパッケージに追加, **83**

Workbench でパッケージに既存パッケージを追加, **72**

Workbench でパッケージに既存リクエストを追加, **80**

Workbench でパッケージに参照を追加, **69, 118**

Workbench でパッケージにパッケージを追加, **73**

Workbench でパッケージにプログラムを追加, **75**

Workbench でパッケージにメモを追加, **68, 117**

Workbench でパッケージ明細を追加, **64**

Workbench でプロジェクトをパッケージに追加, **76**

Workbench でリクエストをパッケージに追加, **82**

Workbench でリリースをパッケージに追加, **78**

パッケージに URL を追加, **107**

パッケージに既存パッケージを追加, **96**

パッケージに既存リクエストを追加, **103**

パッケージに参照を追加, **94**

パッケージにタスクを追加, **106**

パッケージに添付ファイルを追加, **95**

パッケージにパッケージを追加, **98**

パッケージにプログラムを追加, **100**

パッケージにプロジェクトを追加, **101**

パッケージにリクエストを追加, **104**

パッケージにリリースを追加, **102**

標準インターフェースでパッケージにメモを追加, **93**

通知

パッケージへのリンク, **90**

て

デプロイ管理

環境コンポーネント, **18**

添付ファイル

標準インタフェースでパッケージに追加,
95

と

統合

Deployment Management, **19**

は

バージョン制御

Deployment Management との統合, **19**

パッケージ, **23**

URL の追加, **107**

Workbench, **31**

Workbench で意思決定を通してパッケージを処理, **113**

Workbench でコピーを使って作成, **57**

Workbench で参照を使って作成, **60, 62**

Workbench で実行を通してパッケージを処理, **115**

Workbench で進行中のパッケージに明細を追加, **120**

Workbench での URL の追加, **85**

Workbench での一般情報の設定, **63**

Workbench での管理, **121**

Workbench での既存パッケージの追加, **72**

Workbench での既存リクエストの追加, **80**

Workbench でのグラフィックビューへのアクセス, **36**

Workbench での決定の詳細へのアクセス,
38

Workbench での削除, **127**

Workbench での作成, **55**

Workbench での参照の更新, **118**

Workbench での参照の削除, **120**

Workbench での参照の追加, **69, 118**

Workbench での処理, **108**

Workbench でのステータスの確認, **109**

Workbench でのステップの処理, **110**

Workbench での送信, **86**

Workbench でのタスクの追加, **83**

Workbench でのパッケージグループの作成, **123**

Workbench でのパッケージグループの編集, **125**

Workbench でのパッケージ実行履歴へのアクセス, **36**

Workbench でのパッケージの追加, **73**

Workbench でのパッケージ明細のキャンセル, **128**

Workbench でのパッケージ明細の追加, **64**

Workbench でのプログラムの追加, **75**

Workbench でのプロジェクトの追加, **76**

Workbench でのマージ, **121**

Workbench での明細実行ログへのアクセス, **35**

Workbench での明細の権限へのアクセス,
37

Workbench での明細のトランザクション履歴へのアクセス, **38**

Workbench でのメモの追加, **68, 117**

Workbench でのリクエストの追加, **82**

Workbench でのリリースの追加, **78**

Workbench でのワークフローステップ情報の URL へのアクセス, **38**

Workbench で開く, **108**

Workbench でワークフローステップを通して処理, **110**

Workbench の [パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ, **40**

Workbench の [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ, **34**

Workbench の [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ, **33**

Workbench の [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ, **39**

環境を定義するワークフロー, **48**

既存リクエストの追加, **103**

作成, **47**

参照の追加, **94**

参照リレーションシップ, **41**

承認, **90**

処理, **88**

送信, **86**

タスクの追加, **106**

定義, **10, 14**

電子メール通知のリンクから開く, **90**

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクション, **30**

[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション, **29**

[パッケージ詳細] ページの [ヘッダー] セクション, **29**

[パッケージ詳細] ページの [メモ] セクション, **30**

パッケージに追加, **96**

パッケージの追加, **98**

標準インタフェース, **27**

標準インタフェースでの添付ファイルの追加, **95**

標準インタフェースでのメモの追加, **93**
開く, **89**

プログラムの追加, **100**

プロジェクトの追加, **101**

リクエストの追加, **104**

リリースの追加, **102**

パッケージ Workbench, **55**

[パッケージ] ウィンドウ

[パッケージ情報] セクション, **32**

[パッケージ情報] セクション

[パッケージ] ウィンドウ, **32**

[パッケージの検索] ページ

パッケージを開く, **89**

ひ

表示

Workbench でパッケージステータスを表示, **109**

標準インタフェース

パッケージ, **27**

標準オブジェクトタイプの定義, **15**

開く

Workbench でパッケージを開く, **108**

パッケージ, **89**

[パッケージの検索] ページからパッケージを開く, **89**

[マイパッケージ] ポートレットからパッケージを開く, **90**

ふ

プログラム

Workbench でパッケージに追加, **75**

パッケージに追加, **100**

プロジェクト

Workbench でパッケージに追加, **76**

パッケージに追加, **101**

ま

マイグレータ、定義, **15**

[マイパッケージ] ポートレット

パッケージを開く, **90**

め

メモ

Workbench でパッケージに追加, **68, 117**

標準インタフェースでパッケージに追加, **93**

り

リクエスト

Workbench でパッケージに追加, **80, 82**

パッケージに追加, **103, 104**

リリース

Workbench でパッケージに追加, **78**

パッケージに追加, **102**

わ

ワークフロー

Workbench で意思決定を通してパッケージを処理, **113**

Workbench で実行を通してパッケージを処理, **115**

Workbench でのパッケージの処理, **110**
定義, **16**

パッケージと環境, **48**

ワークフローステップのタイプ, **16**

ワークフローステップの定義, **16**

Workbench でのパッケージの処理, **110**

ワークフローステップ

意思決定, **16**

サブワークフロー, **16**

実行, **16**

条件, **16**

職務分掌, **50**